

2 内蒙工作と綏遠事件

600 昭和11年1月20日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

蒙古盟旗の李守信軍への合流阻止を訴える中
国紙論説について

上海 1月20日夜発
本省 1月20日夜着

第二八號

内蒙問題ニ關シ二十日申報ハ論説ヲ掲ケ内蒙ハ察哈爾、熱河、綏遠、山西、陝西、甘肅、寧夏ノ各省ニ密接ナル關係ヲ有シ影響スル所頗ル大ナルカ内蒙六盟ノ内三盟迄滿洲國ニ改編セラレ今又残り三盟和同セラレ居レリ爲ニ綏遠、山西二省カ脅サルルコトナリ憂慮ニ堪ヘス日本軍人浪人ノ計畫ハ華北五省ヲ一丸トスルニアルモ綏遠當局ハ之ヲ肯セサル爲李守信及蒙古保安隊ヲシテ之ヲ嚇シ以テ華北問題ノ解決ニ便セントスルモノナリ依テ中央及綏遠當局ニ望ム所ハ斷乎タル態度ヲ以テ蒙古盟旗ノ李守信軍ニ合流スルコトヲ制止シ綏東ヲシテ察東ノ二ノ舞タラシメス山西、綏遠ヲ

張ハ進退兩難ニ陥リ辭意ヲ洩ラシ居レル由ナリ
天津、南京、支ヘ轉電セリ

602 昭和11年1月23日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

張北において察哈爾盟結成式挙行について

北平 1月23日夜発
本省 1月23日夜着

第三三號

張家口發本官宛電報

第四號

大臣ヘ轉電アリタシ

第六號

一月二十二日張北ニ於テ察哈爾盟結成式アリ德王ハ郭王、「テルワ」外蒙代表ヲ率ヒテ飛來シ盟長卓圖巴札布ニ訓示ヲ爲シ印綬ヲ授ケ盛會裡ニ式ヲ終ヘタリ、委細公信支、天津、南京ヘ轉電アリタシ

障壁トシテ西北ノ安全ヲ保持スヘキコトナリ云々ト論シ居レリ

北平、天津、張家口、南京ヘ轉電セリ

601 昭和11年1月21日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

蒋介石が張自忠察哈爾省主席に対し李守信軍
攻撃を命じたとの軍側情報について

北平 1月21日後発
本省 1月21日夜着

第三〇號

張家口發本官宛電報

第三號

大臣ヘ轉電アリタシ

第五號

軍側ノ傍受セル所ニ依レハ一月十七日蒋介石ヨリ當省政府主席張自忠ニ對シ省政府宣化移轉ヲ、十八日ニハ李守信軍ニ對シ反撃ヲ電命シ來リ張ハ不取敢宋哲元ニ指示ヲ仰キ居ル趣ナルカ二十日省政府要人ノ本官ニ内話セル所ニ依レハ

603 昭和11年2月4日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

わが方軍側の対蒙工作進展に鑑み張家口領事
館の態勢強化方同領事より請訓

北平 2月4日後発
本省 2月5日夜着

第四七號

張家口發本官宛電報

第七號

大臣ヘ轉電アリタシ

第三號

近來外蒙及新疆方面ニ於ケル蘇聯邦ノ諸般ノ施設カ漸次整備ヲ加ヘ來レル次第ハ累次報告済ノ通ニシテ又周知ノ事實ナルカ最近綏遠、熱河省境ヲ突破シテ北進ノ氣勢ヲ示シツツアル陝西省北部ノ紅軍亦之ニ恃ム所アルヲ思ハシムルモノアル一方最近大使館參事官「タイクマン」ヲシテ新疆省ヲ視察セシメタル英國カ將來西藏ヲ初メ西北方面ニ對シ頓ニ積極的施設ニ出ツヘキモ亦豫想ニ難ラス而シテ我方ニ於テモ軍側ノ對蒙工作ハ着々進展ヲ遂ケ或ハ今後數箇月ヲ出

テスシテ一氣ニ綏遠ヲモ解決セントスル意嚮ナルヤニモ推察セラレ既ニ錫林郭勒、察哈爾兩方面ニ配置セラルヘキ政治工作人員ニシテ多倫又ハ當地經由入蒙セルモノ五十名ヲ越エ尙陸續入蒙シツツアリ又今後ノ情勢ノ推移ニ應スル爲後方ニ待機中ノ者數百名ヲ下ラサル趣ニテ軍側決意ノ程モ大體想像セラルル次第ナルカ獨リ外務省側カ此ノ方面ニ對スル唯一ノ施設タル當館カ舊態依然トシテ館長以下館員一名署員三名ノ少數ヲ配置セラルルニ過キサルハ甚タ現下ノ情勢ニ即セサル憾アリ更ニ客年來我方ノ對北支對蒙古工作ノ進捗ニ伴ヒ當地ヲ初トシテ多倫、綏遠、包頭、張北等ニハ在留民激増ノ傾向アリ惟フニ政治工作ノ進展ニ順應シテ本邦人ノ經濟的勢力ヲ輿地ニ(脱?)且當然爲スヘキコトニシテ今日ハ將ニ其ノ時機ナリト云フヘク斷シテ因循姑息門戸ヲ鎖シテ邦人ノ進出ヲ阻ムヘキニアラサルモ當館ニシテ若シ十分ノ備ナクシテ卒然在留民ノ入來ヲ迎ヘンカ管内ニ於ケル邦人ノ多數ハ彼ノ戰區ニ於ケルト一般ノ暴狀ヲ呈スル惧ナシトセス此ノ種邦人ノ増加ニ促サレテ始メテ警察官ヲ配置スルモ時既ニ遅ク惡質者ノ清掃至難ナルヘキハ各地ニ於ケル實例ノ證スル所ナリ旁以テ當館ニ對シ少クトモ領事

ついで

付記一 昭和十一年五月九日付、東亜局第一課作成

「內蒙軍政府ノ内情」

二 東亜局第一課作成、作成月日不明

「滂江(內蒙軍政府)特務機關ニ關スル件」

北平 3月27日後発
本省 3月28日前着

第一四四號

張家口發本官宛電報

第二四號

大臣へ轉電アリタシ

第三六號

ホウエツキヨウ(蒙古獨立軍政府財政部長)ノ内話左ノ通

「昨冬ヨリ降り續ケタル雪ハ未タ止マス爲ニ諸盟ノ牛羊ノ八割ハ凍死又ハ餓死シ現狀ノ儘放置セン(カ)游牧地帯ノ蒙人ハ再起不能ニ至ルヘシ而シテ之カ救済ノ爲ニハ最少百萬圓ヲ要(ス)此ノ際軍政府ニ於テハ日本滿洲國方面ニ救済ヲ仰クト共ニ一方百靈廟蒙政會ノ名義ヲ以テ支那側ニ救済ヲ要求スル意嚮ナリ

館本來ノ職責遂行ニ支障ナキ程度ニテ慎重ニ對處セシメラルルハ目下緊切ノ急務タルヲ疑ハス就テハ差當リ最少限度ノ措置トシテ左記ノ通り當館人員ノ至急増員並ニ無電機配置及謀報費ノ増額方御詮議相成リ結果何分ノ儀御回示ヲ得度ク此ノ段稟請ス

記

一、書記生一名

二、警察官一〇名(內巡查部長四名、巡查六名)

包頭、綏遠、多倫、張北ニ部長ヲ各一名宛配置シ巡查ハ多倫、張北ニ各二名、綏遠、(包頭)ニ各一名配置ス

三、無電機一台技術員ハ右巡查中ニ資格者ヲ差加ヘラレ苦シ

カラス

四、雇員(脱?)

五、謀報費月額二百圓

南京、天津、支へ轉電アリタシ

~~~~~

604 昭和11年3月27日 在中国武蔵大使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

百靈廟蒙政会の現状等に関する包悅卿内話に

二、德化洋行ニ依ル外蒙貿易ハ沿道蒙古人ノ生計上必要ニシ

テ德王ニ於テハ赤化宣傳情報ノ集蒐ハ極力取締ルヘキニ

依リ其ノ存續ヲ希望シ居レリ

三、綏遠蒙政會ノ主タル委員等ハ右德王ノ民族獨立運動ヲ了

解シ居リ唯傳作義ノ武力彈壓ノ爲ニ分立ヲ餘儀ナクセラ

レ居ルニ過キス時機至レハ當然軍政府ニ合流スルモノニ

シテ德王ハ別ニ對立的存在トシテ進行シ居ラス

四、南京政府ハ百靈廟蒙政會ニ對シ經費百萬圓ハ依然支出シ

居リ自分等トシテ默過ノ意嚮ナリ

支、南京、天津、滿へ轉電セリ

(付記一)

內蒙軍政府ノ内情

左記ハ關東軍ヨリ德王ノ內蒙軍政府ニ顧問トシテ派遣サレ去ル三月職ヲ辭シ本五月初旬歸京セル餘村實(京大經濟科出身、主トシテ經濟方面ヲ擔任セルモノナル由)ノ内話ナリ

記

十一、五、九 古川園記

一、元來内蒙軍政府ハ關東軍側ノ對綏遠工作ノ足溜トシテ成立シタルモノナルカ目下ノ處何等活動セス又軍政府内ノ仕事モ一ツトシテ緒ニ就キ居ラサル現状ナリ

初メ德王ヨリ軍側ニ對シ四、五名顧問ヲ要請シタルモ二十名ノ多數入込ミ來タル爲先ツ蒙古側ハ狼狽シ、顧問トシテ入りタル者モ大半中等程度ノミノ學歴ヲ有シ何等對蒙認識アル者ニ非ス徒ラニ軍ノ威ヲ籍<sup>藉</sup>リ一例トシテ德王府ニ勝手ニ燃料或ハ食料ヲ強要セルコトアリ又察哈爾盟ニ做ヒ錫林郭勒盟ニ盟公署ヲ組織シ徵稅スルコトヲ強要セルコトアリタル由、最モ軍側ニハ漸次察哈爾盟ノ如ク錫林郭勒盟モ組織化スル意向ナル趣ナリ)綏遠進出ノミヲ念頭ニ置キ蒙古人ノ風習ナト無視セル向キアリ、加之德王府ノ特務機關長ハ無能ニシテ蒙古衙門ノ高級役人ノ如キ恰モ自己ノ下僕ノ如キ態度ヲ以テ之ニ對スルナトノコトナト痛ク德王ノ心證ヲ害セルモノノ如ク軍側トノ聯絡ハ該機關長ヲ相手ニセス現百靈廟駐在ノ中島機關委員ヲ通シ種々聯絡シ居ル有様ニテ遂ニ四月德王ハ密書ヲ軍中央部ニ送り之カ更迭ヲ請フ一方德王初メ軍政府内ノ蒙古要員ハ一律ニ辭職ヲ申出テ軍政府内ノ有力者金永昌

トノ趣旨ニテ話サレ度キ旨申出アリ

ニ尙二十五日附大臣發天津宛電報ノ次第アリ

三、三月二十九日會議前新京ニ於テ萩原力係參謀(田中中佐)ニ面會ノ際夫レトナク本件ニ言及セルモ目下ハ軍事工作中ナレハ少佐位ニテ充分ト考ヘ居ルモ何レ政治工作期ニ進マハ更ニ上級ノ軍人乃至外交官(西田總領事ノ如キ如何ト言ヒ居タリ)ヲ入レ度シト考ヘ居レリト述ヘ居タリ

四、同日後刻有田大使ヨリ坂垣參謀長ニ對シ大体前記一、ノ「ライン」ニテ本件ニ言及セラレタルニ參謀長ハ既ニ軍ニ於テモ考慮中ナル旨ヲ答ヘタル趣ナリ

605

昭和11年4月4日

在中国武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

察哈爾省政府による滿州国通貨流通禁止措置

のため同省と察哈爾盟との經濟的連絡一時断

絶の懸念について

北平 4月4日前発

本省 4月4日後着

第一五九號

ハ逃出セル趣ナリ、尙顧問中ノ二、三有識者モ敍上ノ雰圍氣ニ居堪マラス職ヲ辭シ目下顧問トシテ入レル者ハ皆察哈爾盟下各縣旗參事官(表面上顧問ト稱ス)ノ下ニ事務見習ノ如キ名目ニテ各地分散シ軍政府ハ解散狀態ニ在ル趣ナリ

一、軍側ノ内蒙特務機關ハ綏遠(少佐)張北縣(少佐)德化縣(德王府ニアリタルモ軍政府ト共ニ最近移駐セリ、少佐)張家口(少佐、天津軍ニ屬ス)四ヶ所ニシテ自餘ノ東、西烏珠穆沁<sup>ウヅムチン</sup>、德王府、阿巴噶、百靈廟、四子部落、寧夏ニハ機關員或ハ聯絡員ヲ設置シ居レル趣ナリ 以上

(付記二)

滂江(内蒙軍政府)特務機關ニ關スル件 (萩原記)

一、三月二十五日中根領事ヨリ天津ニ於テ有田大使ニ對シ大臣宛館長符號撥電ノ趣旨ヲ報告シ關東軍ニ對シテハ德王府駐平辦事處長ノ申出ニモ言及セス又滂江駐在某陸軍少佐ノ言行等ニモ言及セス單ニ德王府ニ駐在スル機關力張北機關ニ比シ階級低キ爲德王府側ニ不平アルヤニ聞及ヒ居ルカ今少シ上級ノ顧問乃至指導機關ヲ入レテハ如何

張家口發本官宛電報

第三〇號

二、三日前ヨリ市中ニ於テ從來流通シ居リシ滿洲國幣ノ受取ヲ拒否シ居ル趣ナルヲ以テ取調タル處三月十日財政部ヨリ察省政府ニ滿洲國幣流通禁止ノ密令アリ省政府ハ二十五日商會ニ密令二十七日商會ハ之ヲ各會員ニ通告國幣ノ流通ハ禁止セラルルコトナリタルカ省政府ハ四月一日ヨリ公安局ニ命シテ使用者ノ檢舉ヲ開始シ既ニ數名引致セラレ説諭後罰金刑ニ處セラレタル由ニシテ各商家ハ公然使用ハ勿論密貨ノ査察ヲ恐レ之カ受取ヲ全ク拒否スルニ至リタル趣ナリ之カ爲察哈爾盟ト察省トノ經濟的聯絡ハ一時断絶セラレハク何分ノ措置必要ト思料セラル

密令原文ハ郵送ス

大臣、天津、南京、支、滿へ轉電アリタシ

606

昭和11年4月7日

在赤峰栗本(秀顯)領事代理より  
有田外務大臣宛

綏遠方面における日中開戦説の流布について

公機密第一六三號

(接受日不明)

昭和十一年四月七日

在赤峰

領事代理 栗本 秀顯

外務大臣 有田 八郎殿

昭和十一年四月七日附在滿大使宛公信機密第二〇六號寫送附

件 名

、綏遠方面ニ於テ日支開戰豫言說流布ニ關スル件

機密第二〇六號

昭和十一年四月七日

在赤峰

領事代理 栗本 秀顯

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉殿

綏遠方面ニ於テ日支開戰豫言說流布ニ關スル件

本件ニ關シ當館警察署長ヨリ左記ノ通り報告アリタルニ付  
右不取敢報告ス

左 記

ヘシ

本信寫送附先 大臣 奉天 錦州 承德

607

昭和十一年 4 月 13 日

在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

傳作義綏遠省主席の政治的立場に鑑み共產勢力への対抗策として中央政府軍の同省内進駐が予想される旨報告

張家口 4 月 13 日後発

本省 4 月 13 日後着

第五六號

最近當館及滿鐵ニ於テ極力探查ノ結果判明セル所ニ依レハ綏遠主席傳作義ハ軍事上包頭ノ王靖國及平地泉ノ李服庸部ノ兩者ニ監視セラレ政治上ハ山西派遣ノ御目付及黨部ニ圍繞セラレ財政上ハ軍費財源タル阿片稅ノ一部ヲ太原ヨリ分給セラレ居ルニ過キサル實狀ニシテ爲ニ全ク獨自ノ判斷ニ基ク行動ノ自由ヲ缺キ居レリ綏遠ハ從來共邦人旅行者ニ對スル監視ハ嚴重ヲ極メ居リシカ今般ノ當館宿舍借上ケ交渉ニ際シテモ朝令暮改更ニ埒明カス一瑞典人ノ家屋賃借ノ紛

最近當地滿人間ニ於テハ冀ニ察東警備軍、内蒙第二警備軍、興安西警備軍等カ熱河蒙旗内ヨリ壯丁ヲ募集セルニ關シ右ハ共產軍ノ進出ニ伴フ綏遠方面ニ對スル戰備充實ノ爲ナリトノ憶測ニ基キ左ノ如キ遙言眞シヤカニ流布セラレ民心ヲ刺戟シツツアルニ鑑ミ其ノ出所ニ付注意スルト共ニ反滿抗日分子ノ策謀ニ非サヤトモ思料セラルルヲ以テ各機關ト連絡シ裡面査察ニ努メツツアリ

記

山西省方面ニ侵入セル毛澤東、徐海東、劉子丹ノ指揮スル共產軍ハ獨特ノ戰術ヲ以テ漸次綏遠ニ侵入シ内蒙側ト連絡ヲ爲シ該地ノ赤化竝ニ察哈爾省方面ヘノ侵入ヲ企圖シ既ニ一味ハ潛入セリトノ情報モアルニヨリ直接境ヲ連ヌル滿洲國トシテ軍備防衛上之ヲ監視センカ北支工作ハ根本ヨリ破壊セラレ今日迄盡シタル犠牲モ水泡ニ歸スルヲ以テ察東軍ハ日本軍ノ援助ニ依リ盛ニ壯丁ヲ募集シ軍備ヲ充實シツツアルニ鑑ミ防共ノ必要上本年八月頃ニ至ラハ綏遠省方面ニ於テ共產軍ト一戰ヲ交ユルノ已ムヘカラサル狀態ニ在リ一方北支那ニ在ル支那軍モ亦此ノ渦中ニ投シ張學良等モ反滿抗日ヲ以テ對應スルニ至ルヘク勢ヒ日支開戰マテニ導カル

糾ニ藉口シテ該地漢字紙上ニ綏遠ハ開市場ニアラサルヲ以テ外國人ハ居住權ナク從テ家屋ヲ貸與スヘカラサル旨ノ記事ヲ掲載スル等外間一部ニ傳ヘラルル親日的口吻ニ全然反スル措置ニ出テツツアリ將來共產軍ニシテ綏遠省ニ侵入センカ山西及黨部ニ對スル傳ノ態度ヨリ推シテ中央勢力ノ引入ヲ策スヘク然ル上ハ全省ニ黨部ノ勢力侵潤シテ我方ノ對蒙工作ハ重大ナル支障ニ遭遇スヘク憂慮セラル尙閣下宛往電第一三號御參照ヲ請フ

北平、天津、南京、滿、支ヘ轉電セリ

608

昭和十一年 4 月 20 日

在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

關東軍による蒙古軍政府の軍事力強化について

張家口 4 月 20 日後発

本省 4 月 20 日夜着

第六八號(部外極秘)

關東軍側ハ本年四月以降蒙古軍政府ノ蒙古第一、第二軍ノ現有勢力三千ヲ一萬ニ増加シ軍費トシテ滿洲國側ヨリ察東政府警備費月額七萬、軍側ヨリ二十萬圓ヲ支給シ大体今秋

末迄ニ右訓練ヲ了スル豫定ニシテ既ニ熱河蒙旗ヨリ續々募集中ナルカ右準備完了次第綏遠工作ニ移ルヘク夫迄ハ天津軍ニ於テ右對蒙工作ニ照應シテ綏遠政權ノ現狀維持ヲ期シ傳作義ヲシテ極力中央ト聯絡セシメサル方針ナルヤニ思料セラル

北平、天津、南京、支、滿へ轉電セリ

609 昭和11年5月6日 在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

防共に藉口した國民政府の對綏遠工作は日本側工作への對抗策であるとの觀測報告

張家口 5月6日後発  
本省 5月6日夜着

#### 第八五號

綏遠出張所ノ報告ニ依レハ清水河縣下ニ劉子丹部ニ屬スル相當有力ナル部隊蠢動シアルモノノ如キ處當地ニ於ケル諸般ノ情報ヲ綜合スルニ中央軍ハ共匪軍ト馴合ヒ之ヲ綏遠方面ニ移動セシメ防共ニ藉口シテ綏遠ニ兵ヲ出タシ日本側ノ對蒙工作ニ對抗スルト共ニ雁門道ニモ一部隊ヲ出シ冀察政

#### 一 九トスル蒙古建國案

ニ君主制國体案(但シ當分ノ間委員制トス)

三 蒙古國會案

四 軍政府組織案

五 滿洲國トノ相互援助協定案

六 雲王ヲ主席トシ索王及沙王ヲ副主席トシ德王ヲ軍政府總裁トスルノ案

尙軍政府ハ本月一日ヨリ德化ニ移轉シ日本人顧問ノ指導ニ依リ政務ヲ開始スルコトナレル趣ナリ(本件軍ヨリノ内報寫ハ本月中旬東京歸着ノ宮崎文化事業部課長ニ託送ス右全文寫ノ本省送付ノコトハ軍モ中央軍部トノ關係上同意セサリシ次第ナルニ付右御含請フ)

(欄外記入)  
尙田中參謀ノ内話ニ依レハ滿洲國トノ相互援助協定ノ締結時期ハ本月末頃ト豫想セラレ居ル處外務省側ニ希望アラハ當館員一兩名及本省ヨリモ一名位ハ飛行機ニテ同行差支ナシトノコトナルニ付右ニ關シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

本件協定成立ノ國際關係影響ノ點ハ顧慮スヘキ次第ナルモ軍ノ工作ハ御承知ノ通り極秘中ノ極秘トシテ運ハレ居ルモノニテ現ニ建國會議開催ニ關シテハ北支ニ於テハ四月二十

權ノ對日接近ヲ防遏セントスル意嚮ナルヤニ傳ヘラレ居リ一方綏省政府ハ最近各縣長ノ更迭ヲ企圖シ居ル處右ハ綏境蒙政會ノ強化ト相俟テ日本側ノ進出防止工作ト判斷セラル北平、天津、南京、支、滿へ轉電セリ

610 昭和11年5月7日 在滿州国植田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

蒙古建国會議に関する軍側情報について

新京 5月7日後発  
本省 5月8日前着

第四〇九號(絶對極秘、館長符號抜?)

軍ヨリノ極秘内報ニ依レハ内蒙工作ハ最近著シキ進展ヲ示シ客月二十一日ヨリ二十六日迄德王ハ李守信、卓特巴札布、吳鶴齡及田中特務機關長ト共ニ西烏珠穆沁ニ於テ蒙政會、錫林郭勒盟、察哈爾盟、烏蘭察布盟、土默特旗、阿拉善、額濟納旗、伊克昭盟、青海及外蒙ノ各代表ト會合シ所謂建國會議ヲ開催セル所會議ニ於テ採擇セラレタル主ナル案件<sup>(左)</sup>右ノ如キモノナリト云フ

一 内外青海、蒙古(但シ滿洲國ニ屬スル四盟ハ之ヲ除ク)ヲ

二 日附「ノース、チャイナ、デリー、ニュース」カ極メテ簡單ナル記事ヲ掲ケ上海方面ニ於テハ四月三十日附上海時事カ内容不明確ナル記事ヲ掲ケタル以外會議ノ内容ニ關シ的中セル報道ヲ掲ケタル新聞ハ一モ無之模様ナルカ軍トシテハ協定締結ノ上ハ更ニ年末頃内蒙獨立承認迄進マントスル意嚮ナルニ付右御含置相成度シ

(欄外記入)

△

五月十三日影佐及片倉ト會談ノ結果、關東軍ニ對シ「蘇蒙援助條約トノ關係モアリ本件締結ニ當リテハ一應中央ト相談スヘキ旨並ニ協定案ノ内容ヲ電報スヘキ旨」訓電セシメタリ 太田

611 昭和11年5月8日 在滿州国植田大使より  
有田外務大臣宛

關東軍作成調書「内蒙古工作ノ現状ニ就テ」の送付について

付記 昭和十一年五月十三日付、東亜局第一課作成  
「内蒙工作ノ現状」

(欄外記入) 公機密第七四三號  
昭和十一年五月八日

(5月16日接受)

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

「內蒙古工作ノ現狀ニ就テ」送付ノ件

本月上旬往電ヲ以テ申進シタル軍側內蒙古工作ニ關スル「內蒙古工作ノ現狀ニ就テ」ノ寫一部別添送付ス

追テ本信部外絕對極秘トセラレ度シ

(別 添)

關特報蒙第六號

昭和十一年四月二十八日

內蒙古工作ノ現狀ニ就テ

關東軍司令部

內蒙古工作ノ現狀

第一、緒 言

目下當軍ニ於テ行ヒツツアル內蒙古工作ニ關シ更ニ其内容ヲ強化充實スルタメ三月中旬關係特務機關長ヲ召集會議ノ結

果四月初旬ヨリ內蒙(西北)施策要領ニ基キ軍政府ノ内容ヲ強化スルト共ニ予定計畫タル二ケ年ノ編成ニ着手スルニ決セリ

四月中旬及四月下旬當軍幕僚ノ現地視察ノ結果及從來ニ於ケル各特務機關ノ報告ヲ綜合シ內蒙古工作ノ現況ヲ述フレハ次ノ如シ

第二、內蒙軍政府ノ内容強化ニ就テ

「內蒙軍政府ハ二月十日成立以來着々其内容ヲ強化シ內蒙各地ニ散在セル人材ヲ糾合シ將來ノ進展ニ對應スル施策ヲ實施中ナリシカ工作漸次進展シ綏遠、察哈爾內ノ各旗及土默特、阿拉善、額濟納部、青海等ニ對シ悉ク連絡ヲ完了スルニ至レリ、茲ニ於テ德王ハ從來各王公及總管ニ對シ日本側援助ニ關シ之ヲ公表シ來ラサリシモ前記ノ如ク各方面ノ連絡完了シタルヲ以テ既ニ之ヲ公表スル機會ニ達セルモノト信シ極秘裡ニ內蒙古王公全体會議ヲ開催シ軍政府ノ強化擴充ヲ計ルニ決シ四月二十日ヨリ一週間ニ亘リ西烏珠穆沁王府ニ於テ會議ヲ開催セリ

尙本會議ハ蒙古人側ニ於テハ蒙古建國會議ト稱シアリ

(一)建國王公全体會議ノ狀況

一、四月二十日德王ハ李守信、卓特巴札布、吳鶴齡及田中(久)特務機關長ト共ニ西烏珠穆沁ニ至リ二十一日ヨリ會議ヲ開催セリ來會セル王公總管及代表次ノ如シ

蒙政會代表 一名

外蒙古代表 一名

錫林郭勒盟王公 十名

察哈爾盟總管 十二名

烏蘭札布 六名

土默特旗 一名

阿拉善 一名

額濟納旗 一名

伊克昭盟 三名

青海代表 一名

備考(伊克昭盟七旗中四旗ハ傳作義ノ壓迫ニ依リ參加シ得サルモ盟長沙王ハ參加セリ)

計 三十七名 隨員 約二百名

ニ本會議ノ目的トスル所ハ從來內蒙古軍總司令部ト稱シ蒙古側ニ對シテモ概ネ秘密トナシアリシヲ今回ノ會議ニ於テハ之ヲ蒙古軍政府ト改稱シ蒙古側ニ對シテハ一切之ヲ

公開シテ親日滿ノ態度ヲ決定的ノモノトシ内容ヲ強化シ名實共ニ蒙古民族中央政府ヲラシメ同時ニ察哈爾、綏遠、阿拉善、額濟納、青海蒙古ヲ合スル領域ノ結束ヲ鞏固ニシ之ヲ軍政府ノ管轄下ニ置カントスルニ在リテ所謂建國會議トモ稱スヘキモノナリ會議ハ極メテ順調ニ進捗シ二十六日ヲ以テ無事終了セリ

三、會議ニ於ケル議決事項ノ概要次ノ如シ

(一)蒙古建國案

原案通過

內、外、青海、蒙古ヲ一丸トスル建國案

(滿洲國內ノ四盟ハ之ヲ除ク)

(二)蒙古國体案

究極ニ於テ君主制ヲ採用スルモ當分ノ內委員制トス君主制ノ内容ニ關シテハ相當機關ニ於テ妥當ノ研究ヲ遂ケタル後慎重ニ決定ス

(三)蒙古國國會案

國体決定後併行シテ決定ス

(四)軍政府組織案

原案通過(別表及別紙第一參照)

(伍)察哈爾盟ニ於ケル開墾地ヲ除ク草地及荒地ヲ各旗ニ返還スル案

原案通過、細部ハ軍政府ニ於テ調査ノ上至急處理スヘシ

(六)災民救恤案

軍政府ニ於テ調査ノ上處理ス

(七)募兵及訓練案

軍政府ニ於テ計畫シ各盟、各旗ハ軍政府ノ計畫ニ基キ募兵ニ應ス

(八)經濟統制案

全地域ノ經濟統制ハ軍政府ノ計畫及命令ニ從フ

(九)借款案(日本若ハ滿洲國)

軍政府ニ於テ將來慎重ニ處理ス

(十)滿洲國トノ相互援助協定案

軍政府ニ於テ處理ス

(出)主席推舉案

原案通過

雲王ヲ主席トシ索王及沙王ヲ副主席トシ德王ヲ軍政府總裁トス

本會議ハ清朝滅亡後最初ノモノナリ

(三)軍政府日本人顧問ニ就テ

一、軍政府日人顧問ハ通譯書記等ヲ合シ二十二名ニシテ政治部ハ村谷彦治郎、軍政部ハ山内源作ヲ主席トシ西蘇尼特<sup>(特務)</sup>務機關長之ヲ區處シアリ

二、顧問ハ當初ニ於テハ熱心ノ余リ指導嚴格ニ過キ蒙古人トノ間ニ感情的ニ疎隔アリシモ本軍政府ノ組織後ニ於テハ一切表面ニ立タシメス、専ラ内面指導ニ任セシムルコトトセルヲ以テ將來漸次圓滿ナル關係ニ入ルモノト判斷セラル

三、日人顧問ハ道義的民族タル蒙古民族ノ絶對的ノ信賴ヲ得ルコトヲ以テ先決條件トスルヲ以テ其德操ノ保持ニ關シテハ嚴格ナル監督ヲ行ヒツツアリ

第三、察哈爾盟ニ就テ

一、察哈爾盟ハ一月四日成立シ爾後日人顧問二十數名(顧問以下書記、通譯ヲ含ム)ノ指導ニ依リ極メテ順調ナル發達ヲ遂ケツツアリテ目下治安完全ニ確立シ盟長卓特巴札布以下孜々トシテ政務ニ勉勵シアリ本年度豫算ハ約三百二十萬圓ニシテ内二百萬圓ハ察哈爾盟自体ノ行政費二百

(二)軍政府ノ實權充實ト其内容

一、蒙古軍政府ノ組織及内容別表<sup>(省略)</sup>ノ如ク組織法別紙<sup>(省略)</sup>ノ如シ

二、本組織ハ雲王ヲ主席トシ沙王(伊克昭盟長)及索王(錫林郭勒盟長)ヲ副主席トシ實權ハ總裁タル德王<sup>(省略)</sup>三元ヲ掌握スルモノニシテ實質的ニハ德王ノ獨裁機關タリ

一切ノ畫策ハ德王及內蒙古唯一ノ實際政治家タル吳鶴齡ノ定ムル所ニ依ル

三、百靈廟蒙政會ノ各自ハ依然當分ノ内之ヲ存置スルモ實質的ニハ軍政府ノ出張所トス

四、本年二月下旬軍政府攪亂ノ目的ヲ以テ綏遠ニ成立セル綏遠蒙政會ハ百靈廟蒙政會ノ指揮下ニ入り各自ハ當分之ヲ存スルモ之亦實質的ニハ軍政府ノ出張所トス

五、軍政府ハ五月一日ヨリ德化ニ移轉シ日本人顧問ノ指導ニ依リ政務ヲ開始スル豫定ナリ

六、今回ノ會議ノ結果軍政府ハ其内容ヲ充實スルト共ニ一般蒙古民族間ニハ公開セラレタルモ外部特ニ支那側ニ對シテハ依然極秘トシ假令其ノ内容暴露セラレタル際ニ於テモ從來ノ如ク蒙政會及綏境蒙政會ヲ利用シ極力之ヲ否認セシムル筈ナリ

二十萬圓軍政府ノ軍費ニ充テ得ル狀態トナレリ

二、目下ノ注目スヘキ施設次ノ如シ

察哈爾盟保安隊約一千二百名

日人顧問ノ指導ニ依リ既ニ盟内ノ治安ノ維持ニ任シ得ルノミナラス有事ノ日第一線ニ參加シ得ル素質ヲ備フルニ至レリ

八月末迄ニ豫定ノ二千名ニ充實スル筈

蒙古青年學校

舊農業學校ヲ蒙古青年學校トシ目下察哈爾盟ヨリ約二百名ノ蒙古青年ヲ收容シ軍事及普通學ヲ教授シツツアリ其成績豫想外ニ良好ニシテ近ク錫林郭勒及綏遠、阿拉善等ヨリ有爲ナル青年約三百名合計五百名ヲ收容スル筈

目下收容中ノ青年ハ何レモ我日本帝國ノ國力ヲ理解シ衷心信倚ノ念ヲ抱キツツアリテ今ヤ民族回復ノ熱ニ燃エツツアリ

三、察哈爾盟内ノ漢人約五十萬ハ漢人出身ノ縣長ノ指導下ニ永年ニ巨ル軍閥ノ搾取ヨリ免レ稅額ノ低下ト治安ノ確立ニ依リ軍政府ノ政治ヲ謳歌シツツアリ

第四、軍備充實ノ現状

一、内蒙施策要領ニ基ク蒙古軍二箇ノ充實ニ關シテハ三月中旬滿洲國軍政部及當軍司令部間ニ於テ協議ノ結果四月上旬ヨリ充實ニ着手スルコトナリ三月下旬ヨリ募兵ニ着手シ六月下旬迄ニハ二ヶ軍約一万、保安隊(各盟約二千)四箇約八千(阿拉善、額濟納及土點圖<sup>(蒙特)</sup>ハ當分ノ内旗自体ニ於テ所要ノ數ヲ充實シ將來盟政革新ニ際シ軍政府ノ統制下ニ置ク豫定)トスル筈

二、幹部ノ教育機關トシテハ西蘇尼特ニ軍官學校アリシカ昨年末來滿洲國出身ノ蒙古人ヲ教官トシ我顧問ノ指導下ニ初級士官トシテノ教育ヲナシツアリ

目下在學中ノモノハ約五十名ニシテ近ク第二期生約百名ヲ募集スル筈

尙將來特別班ヲ設ケ各王公ノ子弟ノ教育ヲ開始スル筈

顧問ノ報告其他ヲ綜合スルニ軍官學校學生ノ規律ハ嚴正ニシテ素質亦良好ナリ

#### 第五、德王ノ抱懷スル企圖

一、德王ハ雲王、沙王、索王ヲ「ロボツト」トシテ實權ヲ掌握シ内蒙隨一ノ才幹ヲ有スル吳鶴齡ヲ智謀トシ先ツ察哈爾、綏遠、寧夏三省ヲ包含スル蒙古獨立政權ヲ確立シ次

テ之ヲ外蒙古、青海、新疆、西藏ニ擴大スルノ企圖ヲ有シ既ニ必要ニシテ可能ナル方面ニハ祕密裡ニ連絡ヲ開始シアリ

二、綏遠ヲ完全ニ蒙古政權内ニ包含スルコトハ蒙古政權ノ基礎ニ重大ナル影響アルニ鑑ミ最モ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミツツアリテ目下傳作義ニ對シ各種ノ手段ヲ講シテ合作ニ努力中ナリ然レトモ一面ニ於テ若シ傳作義ニシテ合作ヲ肯セサルトキハ武力ヲ以テ之ヲ省外ニ放逐スルノ決意ノ下ニ着々準備中ナリ

三、外蒙古ニ對シテハ努メテ和平的手段ニ依リ合流ヲ策シ特ニ先ツ外蒙古民族ノ内蒙古方面ヘノ移駐ヲ獎勵シ人口ノ激減ニ依リ外蒙古政權ノ經濟的實力ヲ破壊スヘク工作中ナリ

内蒙古ノ經濟的實力ニ鑑ミ本工作ハ相當ノ效果ヲ期待シ得ヘシ

尙將來外蒙古軍隊招撫ニ着手スル筈ニシテ德王ハ其可能性アルコトヲ確信シアリ

四、青海、甘肅、新疆ニ對シテハ在住蒙古人ヲ利用スル外回教徒ノ懷柔ヲ必要トスルヲ以テ將來回蒙兩族ノ合作ニ關

シテハ軍政府トシテ大ニ努力スヘク又其可能性大ナルモノト認ム

五、西藏ニ對シテハ軍政府ハ喇嘛教ヲ利用セハ容易ニ合作スルコトヲ得ルモノト信シアリ

六、領域内ノ漢民族ニ對シテハ之ニ壓迫ヲ加フルコトナク彼等ノ理想タル安居樂業ヲ容易ナラシメ多年ノ虐政ヨリ之ヲ救済スルコトニヨリ招撫ノ目的ヲ達成ス

#### 第六、結言

特務機關、顧問及幕僚ノ現地視察等ノ報告ヲ綜合スルニ西部内蒙古民族間ニハ本年初頭察哈爾盟ノ恢復及軍政府ノ成立ニ依リ依然親日滿及民族自立ノ氣運興隆シ心アル王公及青年ハ潑刺タル復興精神ヲ喚起シ來レリ若シ將來帝國ノ國力ト東洋平和確保ノ大乘の見地ニ立チテ之ヲ善導セハ我西北施策ハ豫想外ニ迅速ニ健實ナル進展ヲ見ントスル氣運ニ在リテ帝國ノ爲誠ニ喜フヘキ現象ナリト確信ス

(欄外記入)

部外極祕

#### (付記)

内蒙工作ノ現状

(昭和十一年五月十三日樞密院ニ於ケル大臣ノ説明資料)

一、内蒙工作ノ目的

蘇聯邦ノ赤化工作ハ外蒙及新疆ヲ通シテ内蒙並北支那ニ迫リツツアリ。之カ防止ノ爲ニハ早キニ及ンテ内蒙古ニ親日滿勢力ヲ樹立シ我積極的支援ノ下ニ防共工作ヲ施スコト焦眉ノ急ナリトス。一方軍ノ對蘇作戰準備ノ見地ヨリスルモ蘇聯邦ノ外蒙古ニ有スル支配權ヲ覆スコトハ最重要ナル意義ヲ有スル處之カ爲ニハ滿洲國ヲ根據トスル正面ノ工作ヲ以テスルヨリハ外蒙古ト同一民族ノ占據地帶ナル内蒙古ニ日滿依存ノ確乎タル勢力圈ヲ設定シ以テ思想的社會的並政治的ニ外蒙古ニ對スル工作ヲ進ムルノ方策喫緊事タリ。將又北支政權ニ對スル工作上ヨリスルモ我方内蒙工作ノ結果ハ南京政權ニ對シ有力ナル迫力トナリ得ヘキノミナラス内蒙方面ニ或ル程度ノ既成事實ヲ築キ置クコトハ南京政權ヲ我方ニ引付ケル上ニ於テモ有效ノコトニシテ對支三原則第三項(外蒙等ヨリ來ル赤化勢力ノ脅威カ日滿支三國共通ノ脅威タルニ鑑ミ支那側

ヲシテ外蒙接壤方面ニ於テ右脅威排除ノ爲我方ノ希望スル諸般ノ施設ニ協力セシムルコトノ趣旨モ亦茲ニ存スル次第ナリ。

### 二、内蒙工作ノ經過

滿洲國成立以來内蒙各盟旗ノ間ニ南京政府ノ支配ヲ離脱シ高度ノ自治ヲ獲得セントノ運動擡頭セル處我方トシテハ滿洲國建國ノ工作ニ追ハレ未タ内蒙ヲ顧ミルノ暇ナカリシヲ以テ自治運動ハ自然南京側ノ壓迫ニ遭ヒ當初ノ要求ハ殆ント容レラレス、僅ニ漢人指導下ニ輕度ノ自治權ヲ有スル蒙古地方自治政務委員會(所謂蒙政會)ノ成立ヲ見タルニ止リタリ。然ルニ蒙古人等ノ自治機運ハ德王ヲ中心トシ依然トシテ熾烈ナルモノアリタル處關東軍モ客年ニ入りテヨリ德王等ニ積極的支援ヲ與フルニ至レルヲ以テ茲ニ南京側ノ支配ヲ受ケサル察哈爾盟ノ結成並ニ德王ヲ中心トスル内蒙古軍政府ノ組織ヲ見目下内蒙工作ハ漸次所期ノ方向ニ進捗シツツアル次第ナリ。今日迄ノ經過ノ概要ハ左記ノ通ナリ。

#### (イ) 察哈爾盟ノ結成

昭和八年七月軍ハ多倫ニ於ケル親日滿蒙ノ李守信軍ヲ

絡ヲ斷タサリシニヨリ軍側ニ於テ同人ノ説得ニ努メタル結果同人ヲシテ日本ト提携ヲ受諾セシメタルカ更ニ德王ハ客年十一月下旬新京ニ來リ關東軍側ノ眞意ヲ知ルヤ愈々内蒙自治乃至獨立ノ決心ヲ固メタリ。仍テ軍ハ兵器其ノ他ニ關シ德王ヲ具體的ニ援助スルノ處置ヲ取レリ。斯クテ德王ハ軍ノ指導下ニ軍政府樹立ノ準備ヲ進メツツアリシカ其ノ後察哈爾盟成立ヲ機トシ二月十日德王ヲ主班トスル軍政府(德化ニアリ)ノ組織ヲ見タリ。

右組織ハ長官(德王)ノ下ニ祕書處、政務處(德王)軍政部(李守信)ヲ置キ別ニ日人顧問部ヲ設置シ蒙政會ノ管轄區域ノ内伊克昭盟及綏遠土默特旗ヲ除キ新ニ阿拉善蒙古ヲ含ム範圍ヲ管轄ス。兵力ハ現在李守信軍約二千五百、德王騎兵隊約三百、其他察哈爾盟一千五百、錫林郭勒盟一千、烏蘭扎布盟一千二百、ナルカ軍ニ於テハ騎兵四ヶ師計一萬ヲ目標トシテ目下之カ増強方計劃中ノ趣ナリ

### 三、南京政府ノ措置

以上ノ如キ察哈爾盟及内蒙古軍政府ノ成立ハ南京政府ヲ

中心トシテ多倫縣下ヲ察東自治區トナシ對西部蒙古工作ノ根據地タラシムルト同時ニ内蒙各地ニ特務機關ヲ設置シ着々對内蒙工作ヲ進メタルカ、昭和十年六月張北ニ於ケル支那兵ノ我官憲侮辱事件ヲ機トシ宋哲元ニ對シ長城以北ノ察哈爾地方ヨリ支那兵ノ撤退方要求シ之ヲ受諾セシメタリ(土肥原秦德純協定)

右宋軍ノ撤退後ハ蒙古保安隊ヲ以テ前記地方ノ治安維持ニ當ラシメントセル處宋哲元側ニテハ撤兵ノ約ヲ實行セス、仍ツテ關東軍ニ於テハ客年末前記李守信軍(蒙支兵相半ス)ヲ多倫ヨリ張北方面ニ進出セシメ實力ヲ以テ張北六縣等ノ地域ヲ接收セシメタリ。察哈爾部ヲシテ漢人ノ支配ヲ脱シ盟組織トセンコトハ元々蒙政會ノ熱望スル所ナリシモ南京側ノ反對ニヨリ實現セサリシ次第ナリシカ前記工作ニ依リ察哈爾部ノ大部分ヨリ支那軍ヲ追ヒタルヲ以テ茲ニ南京側ト關係ナク本年一月初旬張北ニ察哈爾盟廳ヲ開設セシメ日人顧問部ヲ設ケ之カ指導ニ任セシムルコトナレリ

#### (ロ) 軍政府ノ組織

從來德王ハ親日滿ノ意向ヲ有シタルモ尙南京側トモ連

脅カセルノミナラス綏遠蒙古ニ動遙ヲ與ヘタリ。蓋シ南京側トシテ、事態ヲ此儘放任スルニ於テハ綏遠方面モ漸次德王ニ合流スルノ可能性アルヲ恐レタルモノノ如ク從來德王一派ト對立シ來レル伊克昭盟ヲ主トシテ、一月二十五日綏遠省境内蒙古各盟旗地方自治政務委員會ヲ組織セシメ閻錫山ヲ其ノ指導長官ニ任命スル等極力綏遠蒙古ノ懷柔ニ努メ居レリ。即チ南京側ハ王公ノ心理ヲ利用シ盟旗ノ王公ニ可然名儀ヲ與ヘ該委員會委員ハ王公ニ限ルモノトナス等極力現狀維持ヲ企圖シ以テ德王等ノ民族獨立乃至自治運動ヲ阻止セントシ居ル處德王ノ軍政府ノ實力漸次整備シツツアル折柄本委員會並綏遠省主席傳作義ノ今後ノ動向ハ注意ヲ要スル次第ナリ

612

昭和十一年五月十二日

在中国武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

蒙古軍政府の軍隊が綏遠省内へ進出した場合は断乎阻止するとの傳作義意向に関する情報について

北平 5月12日夜発  
本省 5月12日夜着

第二一號

蒙政會駐平辦事處長包悅卿ハ德王ヨリノ招電ニ依リ十日歸平シタルカ同日清水ヲ來訪シ大要左ノ如ク内話セル趣ナリ  
綏遠ノ傳作義ハ蒙古獨立軍政府ノ發展ヲ阻止スル爲種々劃策シ居レルカ萬一獨立軍政府軍力綏遠省内ニ侵入スルカ如キ事態トナラハ寧ロ共產軍ヲ引入ルルニ如カスト洩ラシ居ル趣ニテ此ノ點ハ充分注意スル必要アリ更ニ山西側ハ獨立軍政府ノ地盤力綏遠寧夏方面ニ伸ヒルコトヲ防止スル爲東北軍ト提携方協議シ居ル模様ニテ數日前來平セル張學良ノ代表趙某モ自分ヲ食事ニ招キ綏遠蒙政會ヲ尊重シテ其ノ機構ヲ破壞スルカ如キコトナキ様勸告スル所アリ今後獨立軍政府ノ發展ニ伴ヒ山西側、東北軍及共產軍ノ動向ハ極メテ重視スヘキモノアリト察セラル  
支、南京、天津、張家口、滿ヘ轉電セリ

613 昭和11年5月13日  
在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

綏境蒙政會の設置など百靈廟蒙政會の切崩し策  
とも見られる国民政府側の措置振りについて

張家口 5月13日後発  
本省 5月13日夜着

第九一號

國民政府ノ綏境蒙政會設置ノ目的カ内蒙古全體ヲ包含スル百靈廟蒙政會ヲ切崩シテ德王一派ノ勢力ヲ殺カントシタルモノナルカ目下ノ機微ナル情勢ニ顧ミ敢テ積極手段ニ出テス百靈廟側ハ依然綏遠省内ニ蟠踞シテ内蒙古各盟旗ニ號令シ居ル處中央ハ四月末突如綏遠蒙政會委員ノ百靈廟側委員兼任ヲ解キ百靈廟側ニ察哈爾省内移轉ヲ命シタリ右ハ百靈廟蒙政會ノ實權ヲ行ヒツツアル蒙古軍政府ノ德王府ヨリ德化縣ニ移轉ノ議アルヲ探知シ俄ニ先手ヲ打チタルモノニシテ移轉實現後ハ更ニ之ヲ察境蒙政會ト改稱セシメテ綏遠蒙政會ト同列ニ置カントスル底意ナル處百靈廟ハ西部蒙古貿易ノ要衝ニ當ルヲ以テ蒙政會側トシテ之ヲ手放スハ相當ノ痛手ナルノミナラス名文ノ上ニ於テモ頗ル不利ノ立場ニ迫込マルル次第ナルヲ以テ偶々本月三日德王等出席(綏遠蒙政會ニ屬スル各蒙旗ヨリモ密ニ代表ヲ派遣セリ)ノ下ニ百

付記 情報部第二課作成、作成月日不明

右軍政府の組織等に関する調査

張家口 5月14日後発  
本省 5月14日夜着

第九六號(部外秘)

五月十二日德化縣ニ於テ蒙古軍政府成立大會舉行セラレタリ蒙古側ハ青海、新疆、額濟納方面ヨリモ代表者出席シ盛會ヲ極メタル趣ナリ委細公信  
北平、天津、南京、支、滿ヘ轉電セリ

(付記)

烏珠穆沁ニ於ケル蒙古全体會議(四月二十日ヨリ二十六日迄蒙古建國ニツイテ協議セリ)ノ議決ニ基キ五月十二日ノ德化(「チャブサル」、西「スニト」)アリ、德王府ノ南方テ張庫街道ニ位スル要害)ニ於テ盛大ナル蒙古國建國式舉行セラレ、新興蒙古國ノ誕生ヲ見ルニ至レリ  
右建國式ハ「ウチユムチン」ニ於ケル蒙古全体會議ニ比シ更ニ盛況ヲ極メ察哈爾、綏遠、寧夏、青海、及外蒙代表(庫倫ヨリ來ル)等ノ多數出席アリ、關東軍ヨリハ今村

614 昭和11年5月14日  
在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

德化において蒙古軍政府成立大会舉行について

靈廟ニ於テ開カレタル第四次蒙政會大會ニ於ケル決議事項ノ一般ヲ各方面ヨリ探聞スルニ概略左ノ如シ  
一、補助金(月額三萬元)ノ増額ヲ中央ニ要求スルコト  
二、武器彈藥ノ補助ヲ中央ニ要求スルコト  
三、二月末百靈廟ヨリ逃亡シテ綏遠省政府ノ保護下ニ入りタル蒙古保安隊員(往電第一三號參照)ノ武器返還ヲ綏遠省政府ニ要求スルコト  
四、蒙政會ハ中央ノ命ニ依リ德化縣ニ移轉スヘキ殘務整理ノ爲當分百靈廟ニ辦事處ヲ設クルコト  
五、從來綏遠省政府ニ於テ恣ニ徵收シ來レル西公旗ニ於ケル阿片稅其ノ他ノ稅損ハ今後百靈廟蒙政會ニ於テ徵收スルコト  
六、蒙古獨立ニ關スル政治工作ハ蒙政會ノ決議ニ依ラス軍政府ニ於テ遂次方策ヲ決定實施スルコト  
北平、天津、南京、支、滿ヘ轉電セリ

616

昭和11年5月19日

有田外務大臣より  
在滿州國植田大使宛(電報)

關東軍が工作中的の滿州國と内蒙との相互援助  
協定締結問題に関する陸軍中央より同軍への

〔板垣參謀長先般來京ノ際  
五月二十一日影佐中佐談  
(欄外記入)  
(1)關東軍ノ對内蒙工作ハ盟旗ニノミ限リ綏遠傳作儀ニ對スル工  
作ハ北支處理要綱ニ依リ天津軍司令官之ニ任スヘキコト  
(2)傳ヨリ綏遠省主席ノ地位ヲ奪フカ如キコトヲセサルコト  
(3)對蒙工作ノ見地ヨリセハ傳ヲ積極的ニ德王ノ下ニ屬セシムル  
ヨリハ德王ト傳トノ間ニ親善關係ヲ保持セシムル様努ムルコ  
ト得策ナルコト  
ノ三点ヲ中央方針トシテ十分話アレハ飛行機ニテ爆撃スルトカ  
聯隊ヲ派遣スルトカ云フカ如キコトハ絕對ナシト確信ス〕

太田記

副參謀長及田中參謀列席セリ

ニ、蒙古國ノ政体ニ付テハ未タ決定ノ時期ニ到達シ居ラサル  
モ根本ノ國家組織法ハ既ニ確立ヲ見タル趣ニテ中央政府  
ノ機構ニ於テハ主席、副主席、總裁、並ニ各省主管者ヲ  
置クコトニ決シ主席ハ雲王、副主席ハ索王、沙王、總裁  
ニハ德王ヲ夫々任命セリ

而シテ主席、副主席ノ地位ハ元老院又ハ參議院ニ相當シ  
總裁ハ米國大統領ノ地位ニ相當スルモノニテ政治上ノ實  
權ハ總裁タル德王ニ在ル次第ナリ

總裁ノ下ニ軍政省、民政省、文教省、財政省、司法省等  
ノ如キ各省アリテ政務ヲ掌理スル由ナリ、各省長官ハ既  
ニ任命アリタルコトナランモ未タ聞知セス

三、蒙古國ノ領域ニ付テハ「チャハル」、綏遠、寧夏、青海  
地方ヲ豫定地域トセラレアルナランモ未タ明瞭ナラスノ  
ノ内綏遠工作完成ヲ告ケナハ逐次明瞭スルニ至ラン  
目下伊克昭盟長沙王ノ如キハ對立關係ニアル綏境蒙政會  
主席ト蒙古國副主席ニ就任シアル關係上、近頃ハ二枚ノ  
名刺ヲ持チ歩キ居ル情況ナリ

三、蒙古國ノ國都ハ德化ニ決定セラレ同地ニハ國都トシテノ

北平、天津、南京、支へ轉電セリ

(欄外記入)

五月二十一日影佐中佐談

〔板垣參謀長先般來京ノ際

(1)關東軍ノ對内蒙工作ハ盟旗ニノミ限リ綏遠傳作儀ニ對スル工

作ハ北支處理要綱ニ依リ天津軍司令官之ニ任スヘキコト

(2)傳ヨリ綏遠省主席ノ地位ヲ奪フカ如キコトヲセサルコト

(3)對蒙工作ノ見地ヨリセハ傳ヲ積極的ニ德王ノ下ニ屬セシムル  
ヨリハ德王ト傳トノ間ニ親善關係ヲ保持セシムル様努ムルコ  
ト得策ナルコト

ノ三点ヲ中央方針トシテ十分話アレハ飛行機ニテ爆撃スルトカ  
聯隊ヲ派遣スルトカ云フカ如キコトハ絕對ナシト確信ス〕

太田記

永久的施設行ハレ居ル次第ナリ(近ク中銀支銀行同地ニ  
設立サル筈)

以上

615

昭和11年5月18日

在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

平地泉および綏遠に對する空爆などの実力行  
使を關東軍が計画中との情報報告

張家口 5月18日後發  
本省 5月18日夜着

第一〇三號(部外秘)

滿航空乗務員ノ内報ニ依レハ軍側ハ傳作義ノ南京政府トノ  
合作ヲ確認シ蒙古工作進展ノ必要上六月中旬(現在實施中  
ノ東邊道爆撃終了後)平地泉、綏遠ニ爆撃ヲ加フルコトト  
ナリ同社員ノ一部ニハ既ニ動員令下リタル趣ナリ

平地泉ニハ熱河駐屯部隊ヨリ一箇聯隊ヲ派遣スル筈ニシテ  
綏遠、包頭等ノ在住邦人ハ右等攻撃實施前ニ空輸引揚ケシ  
ムル筈ナリト

本件部外絕對極秘

訓令振りについて

本省 5月19日後8時30分發

第三八三號(館長符號扱、極秘)

貴電第四〇九號ニ關シ

軍關係官ニ對シ(一)關東軍側計畫タル冀東政權ト内蒙トノ相  
互援助協定締結ニ關シテハ往電第三四九號等ノ理由ニ依リ  
絕對反對ナルモ(二)滿洲國ト内蒙トノ相互援助協定ニ關シテ  
ハ主義上必シモ反對セサルモ本件ハ一般外交政策殊ニ蘇蒙  
援助協定等トノ關係モアリ一應中央ニ於テ協定案ノ内容ニ  
付慎重檢討ヲナスコト可然ク尙本件協定締結ノ際ハ現地ノ  
事情視察旁外務本省ヨリモ派員致度意向ナル旨申入レタル  
結果十三日軍中央部ヨリ關東軍ニ對シ協定締結前中央ト協  
議スヘキ旨並ニ不取敢協定案ノ内容ヲ報告スヘキ旨訓電セ  
リ

以上關東軍側トノ聯絡上ノ御參考迄(追テ前記中央部ノ訓  
電ニ對シ關東軍ヨリハ未タ何等回電ナキ處關東軍側トノ機  
微ナル關係モアルヘキニ付貴方ヨリ關東軍側ニ對シ強ヒテ  
協定案ノ内示ヲ求メラルルニハ及ハス)

617

昭和11年5月25日

在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛

日本側の内蒙工作進展に対し中国側が對抗策として綏遠方面への増兵を行う見通しとの情報について

機密第一七四號

(6月2日接受)

昭和十一年五月二十五日

在張家口

領事代理 中根 直介〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

綏遠政情ニ關スル件

本件ニ關シ綏遠派駐員ノ報告左記ノ通り何等御參考迄

記

駐綏第三十五軍參謀長陳炳謙ハ五月九日傳主席ヲ代表シ閣主任ニ對シ軍情報告ノタメ太原ニ赴キアリタルトコロ二十一日午後七時歸綏シタルヲ以テ本名ノ報告要旨ニ關シ彼ノ有力部下ニ付之ヲ打診シタルトコロ陳參謀長ノ軍情報告ノ要旨中最モ注目スヘキ點ハ綏東地區タル集寧、涼城、豐鎮、興和、陶林、五縣ノ緊迫情況並百靈廟ニ關東軍特務機關ノ

進出シタル其ノ後ノ狀況次デ最近綏遠ヲ中心ニ頓ニ激増シアル日本人ノ來往狀況ニ及ヒ目下綏遠ニ於テハ之等日本人ハ多數ノ家屋借上ニ奔走シアリ而シテ之等家屋ハ有事ノ際ハ直チニ日本軍隊ノ兵舎ニ充ツヘキ準備中ナリト市中ノ謠言ヲソノマ、報告シタルモノ、如ク殊ニ察區蒙政會德王並張北李守信ノ部隊カ目下張北ニ大集結ヲナシツツアリ北支

ニ日本兵力ノ増大セラル、ニ及ヒ益々土氣上リ今將ニ綏東五縣ヲ併合セズンバ止マザル勢ニシテ今日速カニ之カ對策ヲ講ゼザレバ綏遠ハ固ヨリ山西省否支那全局ニ由々シキ重大事惹起スヘシト閣ノ注意ヲ喚起シタルモノ、如ク此處ニ於テ閣ハ中央並ニ山西綏遠ノ各領將ヲ急遽太原ニ召集シ近ク武官會議ヲ開ク予定ニシテ之カ對策トシテハ飽クマデ積極的武力工作ニ出ヅヘク決定シ近ク綏東地區ニ大々的ノ増兵ヲ敢行スル趣ナリト

追而傳主席ハ兩三日中ニ太原出發スル予定ナリ  
本信寫送付先

北平、天津、南京、  
在支大使、在滿大使

618

昭和11年6月10日

在中国武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

張家口、綏遠、包頭等における外交機關拡充  
に關する計画案具申

北平 6月10日後發

本省 6月11日前着

第二九五號(極秘)  
貴電第五八號末段ニ關シ

冒頭貴電視察旅行ヲ終ヘ十日歸任セル花輪書記官ノ報告ニ基キ卑見左ノ通り申進ム尙本件ニ付テハ中根領事代理ニ於テモ大體異議無キ趣ナリ

一、張家口領事館 現狀ノ儘ニテ差支無シ但シ閣下發張家口宛電報第四三號新疆地方調查實施ノ爲池田書記生ヲ同方面ニ出張セシメラルル場合ハ同書記生ノ補充ハ絕對必要ト思考ス

二、綏遠 省政府ノ所在地トシテ又山西ノ動向乃至蒙政會關係等ヨリ見張家口以西ノ最重要地ニテ現在ノ巡查部長巡查二名ノ機構ニテハ充分ナラス近ク事務所問題モ解決スヘキニ付副領事又ハ古參書記生一名ヲ増員シ事實上分館

程度ノ機構ト爲スヲ要ス

三、包頭 現狀ニテ差支無シ

四、平地泉 同地ハ綏遠省ノ東北端ニテ人口一萬五千ニ滿タス商工業モ盛ナラスト雖東北方蒙古軍政府首都德化ニ對峙シ山西軍ハ此ノ地ヲ中心ニ盛ニ土壕ヲ構築シ居リ蒙古獨立軍乃至日滿側ト山西側ト何等カノ事變勃發スレハ先ツ此ノ方面ナルヘシト觀測セラルルニ付鮮クトモ今年一杯ハ現狀通り一、二名ノ警察官ヲ配置シ置クコト適當トス

五、大同 同地ハ山西北部ノ重鎮ニシテ山西側ハ騎兵司令部ヲ置キ山西北部並ニ綏遠東部ノ警備ニ任セシメ居レリ明年早々開通ノ豫定ナル同蒲鐵道北部線完成スル場合ハ愈重要性ヲ加ヘ殊ニ同地ニハ雲崗其ノ他名所舊蹟多キ爲本邦人ノ遊歴スル者年ト共ニ多ク昨年ハ三百人ヲ超エ又最近本邦人ニ於テ旅館ヲ計畫スル者アリ是等ノ點ヨリスルモ同地ニ書記生一名及警察官一、二名程度ノ配置ヲ緊要トス

六、張北 張北ハ察哈爾盟ノ首都又李守信軍司令部ノ所在地ニシテ内蒙工作上極メテ重要ナル地點ナリ本邦人モ現在

百二、三十名在留シ居レリ

然レ共元來日本人ハ李守信軍ノ特設隊(機械化部隊編成ノ爲公主嶺兵團ノ除隊兵約五十名ヲ中心トス)盟公署、縣公署ノ顧問其ノ他郵政、電政等何レモ軍屬又ハ之ニ准スル者ノミニシテ軍ノ内蒙工作ヲ指導シ得ル人物ヲ置キ得ルニ於テハイサ知ラス單ナル警察官ノ如キハ目下ノ處必要ヲ認メス

セ、多倫 交通關係上今回ハ花輪ニ於テ同地ニ出張セサリシモ各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ同地モ本年初メ日滿軍ノ北部察哈爾進出以來甚タシク重要性ヲ失ヒ目下ノ處承德ヨリ張北、德化、西蘇尼特ニ至ル軍航空路ノ通路ニ過キス軍ニ於テモ特務機關ニ下級代理者ヲ置クニ過キサル狀態ナルヲ以テ將來鐵道敷設セラルル場合ハイサ知ラス差當リ警察官ノ派遣ノ必要アリトハ思惟セラレス

ハ包頭ハ既ニ一家屋ヲ借受ケ先般來引移リ居リ綏遠モ亦花輪出張當時支那側トノ間ニ豫テ派遣警察官ニ於テ物色シ居リタル家屋ヲ事務所トシテ借入方主義上ノ一致ヲ見タルヲ以テ右二箇所ニハ無電設置ヲ適當トシ其ノ爲備員派遣ヲ必要トスヘシ

~~~~~

セル百靈廟ニ同様ノ會議ヲ開キ同様ノ決議ヲ爲シタリ兩會議ニハ沙王等綏遠蒙政會關係王侯ノ代表ヲ始メ遠ク阿拉善。新疆方面ヨリノ代表モ出席セリ

(四)五月十二日軍政府ハ西蘇尼特ヨリ德化ニ移リ關東軍並ニ十八名ノ日本人顧問ノ援助ノ下ニ着々蒙古ノ統一ヲ策シ居レリ又目下第一軍ハ張北ニ司令部ヲ置キ現在二千七百ノ兵力ヲ有シ第二軍ハ德化ニ司令部ヲ置キ二千二百ノ兵力ヲ有ス

(ハ)漢人多數ヲ占ムル察哈爾盟ニ於テハ警察ハ蒙古人ヨリ成ル保安隊之ニ任シ民政ハ縣長以下大體漢人ニ依リ處理セラル又盟公署縣公署ニハ日本人顧問ヲ配置シ居レリ

(ニ)張北、德化間(約三時間半)ハ極メテ良好ナル自動車道路ニ依リ聯絡セラレ(德化、西蘇尼特間(約三時間)西蘇尼特、百靈廟間(約四時間半)モ同様)自動車「トラック」等相當頻繁ニ往復シ居レリ

(外)軍政府ト綏遠ニ本據ヲ有スル綏遠蒙政會トノ關係ハ表面上ハ對立關係ニアリト雖内面ニ於テハ互ニ相通シ居リ現ニ前記二回ノ會議ニ於テモ沙王等ノ代表モ出席シ

619

昭和11年6月13日 在中国武蔵大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

内蒙軍政府の現状および軍側工作に関する花輪書記官の視察報告

北平 6月13日後発
本省 6月13日夜着

第三〇二號(極秘)

貴電第五八號ニ關シ

花輪書記官ノ報告大要左ノ通

一、内蒙軍政府ノ狀況

(イ)曩ニ關東軍ノ支援ノ下ニ西蘇尼特ニ蒙古軍政府ヲ設立シタル德王一派ハ内蒙古各王侯ノ長老タル雲。王ノ名ヲ以テ本年四月二十三日ヨリ四日間ニ亘リ西烏。珠。穆。沁。ニ全蒙各盟旗代表ヲ招集シ軍政府ノ機構ヲ委員會制度トシ其ノ主席ニ雲王、副主席ニ索。王及沙。王(綏遠蒙政會牽制ノ爲名義上)ヲ推シ執行機關トシテ總裁ヲ置キ德王之ニ任シ同軍政府ニ第一、第二兩軍ヲ置キ各軍五千ヲ以テ編成スルコト其ノ他各種ノ事項ノ決議ヲ爲シタリ次テ五月五、六兩日ニ亘リ雲王府ニ於テ綏遠ニ接近

居リ今後日滿側ノ綏遠方面ニ對スル壓力ノ如何ニ依リ變化アルヘキモ現在ニ於テハ綏遠省政府當局ハ南京乃至山西當局ノ意ヲ體シ極力蒙古王侯ノ懷柔ニ努メ居ルモノノ如シ

二、綏遠方面ノ政情

省主席傅作義ハ所謂五。臺。派ニ屬セサル爲閻錫山ヨリハ外樣扱セラレ西包頭方面ハ王靖國ニ依リ又東ハ大同ニ本據ヲ有スル騎兵司令趙承綏ニ依リ監視セラルルカ如キ狀況ニアリ殊ニ最近ハ七十二師長李成達ヲ失ヒ又自ラモ七十三師長タル地位ヲ奪ハレ單ニ軍長ノ空名ニ留マラシメラレントシ居リ甚タ苦境ニアルモノノ如ク夫レカアラヌカ李成達暗殺後間モ無ク太原ニ赴キ今ニ歸任セサル狀態ナリ

三、内蒙古、綏遠方面ノ軍側工作

(イ)關東軍ノ内蒙工作ハ前記ノ如ク極メテ積極的ナリ德化ヨリ自動車ニテ約七時間ノ行程ニアル平地泉方面ニ於テハ此ノ七、八月頃日支交戦アルヘシトノ謠言流布セラレ居リ山西乃至綏遠側ノ防備工作モ此ノ方面ニ集中セラレ居ルモノノ如ク市街及北方要地ニハ到ル所ニ土

壕ヲ構築シ居ル状態ナリ

(4)尤モ軍側ニ於テハ差當リ張家口發閣下宛電報第一〇三號ノ如キ計畫ハ無キモノノ如キモ熱河省境ニアル約一千ノ匪賊ヲ同方面ニ誘導シ(ツツ)アル由ナルヲ以テ或ハ七、八月ニハ同方面ノ擾亂ニ乗シ何等カノ方策ニ出ツルニアラスヤトモ想像セラル

(ロ)前記西烏珠穆沁會議ニ依リ熱河省以西ニ於テハ外蒙トノ交通比較的容易ナルコト判明セル爲軍側ハ同方面ニ熱ヲ有シ來リ本月六日關東軍關係者山本三郎ナル者(田中龍吉^{龍吉}中佐ノ變名ニアラスヤト疑ハルル節アリ)ハ包頭ヨリ飛行機ニテ蒙古人聯絡者二名ヲ定遠ニ輸送シ同地ニ二日間滞在セル事實アリ尙張家口發閣下宛電報第一〇九號ノ特務機關ハ百靈廟ヲ基地トシテ駱駝ニテ近ク定遠ニ赴ク豫定ナリ

(ハ)綏遠省方面ニ對スル軍側工作ハ主トシテ在綏遠特務機關ノ管轄ナルモ今ノ所何等積極的ナル方策ノ見ルヘキモノ無キカ如シ

公機密第三三八號

(7月6日接受)

昭和十一年六月二十七日

在新京

總領事代理 中野 高一(印)

外務大臣 有田 八郎殿

昭和十一年六月二十七日附機密第五七四號在滿大使宛寫送付

件名

一德王一行ノ赴奉ニ關スル件

機密第五七四號

昭和十一年六月二十七日

在新京

總領事代理 中野 高一

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉殿

德王一行ノ赴奉ニ關スル件

內蒙古德王、雄王、吳鶴齡卓盟長及李宋信等^(等々)一行十三名カ現地松井大尉領導下ニ來京セル動靜ニ關シテハ當時新聞報

620 昭和11年6月27日 在張家口中根領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

平地泉における中国軍の防備強化について

張家口 6月27日午後發
本省 6月27日夜着

第一四一號

平地泉派駐員ノ報告ニ依レハ最近支那側兵力ハ急激ニ増加シツツアリシカ省當局ハ商都及豐鎮ニ通スル軍用路ノ修理散兵壕、鐵條網、砲臺ノ修築及地雷ノ埋設軍用警備電線ノ架設ヲ命シ既ニ其ノ完成ヲ見タル由ナルカ市内ハ午後六時ヨリ戒嚴令布カレ謠言頻リニシテ資産家ノ逃避スル者多ク綏遠省銀行平地泉支店ノ如キモ一週間前ヨリ引揚ケ學校ハ休校トナリ連日排日示威運動行ハルル等頓ニ緊張ヲ示シツツアル趣ナリ

北平、南京、支、天津、滿へ轉電セリ

621 昭和11年6月27日 在新京中野(高一)總領事代理より 有田外務大臣宛

德王一行の満州国訪問につき報告

(欄外記入)

導ヲ案セラレタルモノナルカ同人等一行ハ去ル十三日飛行機ニテ來京シ國都ホテルニ止宿シ居タルカ用件ヲ終了シ本月二十四日出發赴奉シタルカ一行ハ二十六日午前九時發列車ハトニテ更ニ赴連大連旅順ノ視察ヲナシ奉天ニ引返シ飛行機ニテ歸蒙スル豫定ナリト言フカ一行ハ當地ニ於テハ專ラ小野寺少佐ノ指導ヲ受ケ皇帝ノ受謁及諸行事ヲ了シタルカ仄聞スルニ內蒙獨立ハ遅クトモ本年八月中ニハ完成スルコトヲ決定シ尙新ニ內蒙古獨立警備軍九個師(三ヶ軍團)ヲ建軍シ之ニ要スル一切ノ準備ハ滿洲國側ヨリ支援スルコトヲ決定シタリト云フ尙ホ斯クシテ蒙古問題カ愈々具體的ニ決定ヲ見ルニ至リ滿蒙交渉漸ク頻繁ヲ生スルニ至レルヲ以テ滿洲國側ニ於テハ駐蒙辦事處ヲ設置スルコトトナシ第一次辦事處長トシテ實業部農務司畜産科長王慶三(蒙古出身)ヲ任命スルコトヲ内定シタルニヨリ近ク發令アルヘシト認メラル爲念

本信寫送付先 外務大臣、全滿總領事

以上

(欄外記入)

影佐中佐ニ話スコト

622 昭和11年7月1日 在張家口中根領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

額済納および阿拉善等へのわが方特務機関設置計画について

張家口 7月1日後発
本省 7月1日夜着

第一四三號(部外秘)

某機關長ノ内話ニ依レハ軍側ノ邊境工作ハ最近頓ニ活潑トナレルカ天津軍ハ西安ニ、關東軍ハ前ニ報告置ノ額済納、阿拉善ニ、次テ青海省札藏ニ夫々五人編成(長一、輔佐一、庶務一、會計一、電信一)ノ特務機關ヲ設置スルコトトナリタルカ近々ノ内ニ甘肅省肅州ニモ設置ノ豫定ナル由北平、天津、支、滿、南京へ轉電セリ

623 昭和11年7月28日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

内蒙方面の日本人駆逐および成都總領事館の

第一七一號

張家口 8月5日前発
本省 8月5日前着

平地泉及綏遠派駐員ヨリノ情報ヲ綜合スルニ綏東地區綏遠軍ノ前哨部隊ハ一日夜大六號附近ニ於テ蒙古獨立軍ノ別働隊タル土匪軍ト衝突シタルカ右報告ニ接シタル傳作義ハ二日綏(遠)ニ於テ軍首腦部會議ヲ開キタル上同夜親シク平地泉ニ急行大同ヨリ招致セル山西軍騎兵司令趙承綏ト綏東防備方針ヲ協議シタルカ不取敢趙ノ部下約二百騎ヲ大六號ニ増援セシメタリ之ヨリ先平地泉ニ於テハ興和ニ於テ逮捕セル土匪約二十名ヲ二十六、七兩日ニ亘リ獨立軍ト通謀ノ故ヲ以テ銃殺シ續イテ集寧縣長ハ兩軍衝突ノ時機切迫セリト稱シテ市民ニ爆彈除ケノ穴倉設備方通令軍側モ山西ヨリ急派セラレタル工程隊約八百名ヲ以テ北門外一支里ノ地點ニ地雷約五十個ヲ埋設シ其ノ他ノ重要地點ニ鹿砦、鐵條網等ノ防禦設備ヲ行ヒ居ル爲人心極度ニ狼狽シ要人、資産家等ノ家族ハ續々平津又ハ大同方面へ避難シツツアル趣ナリ支、南京、北平、天津、滿、承德へ轉電セリ

再開拒否につき行政院より各地方官憲へ訓令
發出との情報について

南京 7月28日後発
本省 7月28日夜着

第五三八號

行政院ニ於テハ西南問題ノ解決後不取敢日本ニ對シ强硬ナル態度ヲ執ルヘキ旨ヲ前置シ左記ノ如キ三訓令ヲ十八日各地方官憲ニ發令セル趣ナリ(黃濬内報)

(一)阿拉善旗ニ對シ日本人ヲ驅逐シ其ノ所持品沒收方
(二)甘肅、寧夏、綏遠一帶ノ内蒙ニ對シ日本人驅逐方
(三)成都總領事館再開拒否(出所極秘)

支、在支各總領事、北平、重慶、鄭州、厦門、張家口へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

624 昭和11年8月5日 在張家口中根領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠省東部において蒙古獨立軍の別働隊と綏遠軍との間に軍事衝突発生について

625 昭和11年8月16日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

彈藥輸送中の百靈廟特務機關員らが中国軍に攻撃され内蒙兵部隊は全滅し機關員ら邦人五名が逮捕されたとの情報について

北平 8月16日前発
本省 8月16日夜着

第四一四號(部外極秘)

張家口發本官宛電報

第一三九號

往電第一三八號ニ關シ

百靈廟特務機關側ニ於テハ公廟ノ大喇嘛部隊ニ彈藥ヲ補給スルニ決シ同機關員中島萬藏以下邦人五名「トラック」ニ臺ヲ以テ輸送ノ途中梅力更廟ニ宿泊シタル處十三日早朝支那軍約一千名ニ包圍攻撃セラレ同廟守備ノ大喇嘛部隊約二千名ハ全滅シ中島以下五名ハ逮捕ノ上彈藥ハ勿論所持金品全部掠奪ヲ受ケテ同日包頭保安司令部ニ護送セラレタルカ同司令部側ハ直ニ之ヲ釋放スルト共ニ我包頭出張員ニ對シ石王對喇嘛交戰地域内ニ日本人五名介在シ居タルヲ以テ保

628

昭和11年8月31日

在天津田尻總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

ハ全然子供ノ病氣ノ爲ナリシカ恰モ同地ニアリシ韓復榘ト
會談シタル事實ニ基キ日本側消息カ種々ノ臆測ヲ爲シ當惑
セル次第ナルカ韓復榘ヨリハ日本トノ關係ヲ至急調整スル
コト必要ナル旨力説アリ自分ヨリ中央政府モ同様ノ決心ニ
テ奮闘シツアルニ付韓ニ於テモ將來共充分協力方答ヘ置
キタル丈ケニテ又蔣介石ニ於テモ韓ノ山東ニ於ケル措置振
ヲ充分認メ居リ自然主席更迭ノ如キ考ハ毛頭ナキ譯ナリト
率直ニ答ヘ尙此ノ種ノ御懸念等ハ忌憚ナク承ラハ如何様ニ
モ御希望ニ應シ度キ所存ナルカ此ノ機會ニ特ニ御願シ度キ
ハ打明ケテ言ヘハ一箇月前ヨリ外交部カ綏遠ニ特派シ居ル
者ヨリノ消息ニ依レハ關東軍ハ同方面ニ軍事行動ヲ取ルコ
トニ決定シ居ルモノノ如ク現ニ昨二十五日板垣參謀長ハ赴
綏シ傳作義ト下折衝ヲ爲スモノノ如キ處斯ノ如クムハ何ニ
モ彼ニモオジヤントナルヘク故ニ充分御注意アリ度シト繰
返シ述ヘ居タリ

支、北平、天津、青島へ轉電セリ

626

昭和11年8月22日

在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠省東部での軍事衝突は小康状態となった
が百靈廟は中国軍の包囲により形勢急迫の状
況について

北平 8月22日後発
本省 8月22日夜着

◎(四七七カ)
第四〇七號

張家口發本官宛電報

第一四一號

綏東方面ニ於ケル事態ハ一時小康ヲ得タル模様ナルモ支那

護送還シ來レルカ今後ハ同地域内ニ立廻ラサル様取計ハレ
度キ旨通告越セル趣ナリ同日包頭ニ急行セル百靈廟盛。島機
關長ハ關東軍ニ請訓ノ上支那側ニ對シ何分ノ對策ヲ執ルコ
トトシ一行ト共ニ引揚ケタル趣ナルカ尙公廟ノ大喇嘛部隊
七、八十名ハ右支那軍ノ爲既ニ全滅セルモノノ如シ何等御
參考迄

大臣、支、南京、天津、滿、承德へ轉電アリタシ

627

昭和11年8月27日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

張群が韓復榘更迭説を否定し綏遠における板
垣關東軍參謀長の活動に懸念表明について

南京 8月27日前発
本省 8月27日前着

第六一一號

往電第五九二號ニ關シ

本二十六日張群ニ更ニ念ヲ押シ置キタル處張ハ陳介ヨリ既
ニ廬山ニ電報ノ次第アリシカ實ハ自自力先般青島ニ赴ケル

軍ハ平地泉、豐鎮、陶林、興和等ノ各縣(內大同普綏騎兵
司令趙承綏。騎兵集團軍ノ大部及傳作義第七十三師ノ主力)
陽高、天鎮方面(李服。第六十八師ノ主力)ニ兵力約二萬五
六千ヲ集中シ防備ヲ固メ居ル趣ナルカ一方綏西方面ニ於テ
ハ過般ノ梅力更。廟事件(往電第一三九號御參照)ニモ關聯シ
支那軍ハ目下百靈廟包圍ノ陣形ヲ(二キアセ) 形勢相當急迫シ居ル
趣ナリ何等御參考迄

大臣、支、南京、天津、滿、承德へ轉電アリタシ

德化や百靈廟などを歴訪し徳王らと会談した
板垣關東軍參謀長の内蒙工作や華北問題等に
関する内話について

天津 8月31日発
本省 9月9日着

郵第一號(極秘)
東亞局長へ

板垣參謀長ハ武藤參謀帶同二十日新京發德化、百靈廟ヲ經
定遠營ニ到リ徳王(北平ニテ教育ヲ受ケ蒙古語ヲ解セス)ニ
モ會見シ更ニ傳作義ト懇談ヲ遂ケ通州ニ於テ殷汝耕ヲ激勵
シ(冀察要人ニハ全然接觸セス)二十七日當地ニ着セルカ二
十八日其ノ内話中御參考トナルヘキ要綱左ノ通り(本電取
扱注意アリ度シ)

一、内蒙工作ハ名ヲ捨テ實ヲ取ル方針ニテ從テ獨立ヲ宣言セ
シムル意嚮ナシ

二、内蒙ト滿洲國ノ間ニハ議定書ノ如キ基本的取極書等ナシ
但シ徳王ハ蒙古大汗タル康德皇帝ノ御墨附ニテ武德親王
ナル稱號ヲ受ケタリ

三、綏東事件ハ土匪ノ仕業ニシテ軍ノ工作トハ何等關係ナシ

四軍ハ綏遠ノ漢民族ヲ排斥スルモノニアラス我方トシテハ
經濟的ニ之ト提携ヲ計ルヲ要スル所從來滿鐵ノ遣口ニハ
遺憾ノ點アルカ如シ

三、傳作義ニ對シテハ蒙古族及日本側ト提携ノ必要ヲ述ヘ置
キタリ之ヲ武力解決スル意嚮ナシ

六、對山西工作ハ殆ト案モナキ實情ト認メラルル處最近南京
ヨリ傳ニ對シ直接百六十萬元ノ軍費ヲ補助シタル由此ノ
關係ヲ逆用シ傳ノ山西乘取ヲ助成スルコトモ一策ナルヘ
キカ

七、德華洋行ヲシテ政治的策動ヲ熄メシムル方法アラハ蒙古
貿易ニ之ヲ利用スルニ必スシモ反對ナラス

八、冀東ハ理論上時機來ラハ河北省ト平等ノ立場ニ於テ冀察
政權ニ合流セシムルコトニ異存ナキモ現狀ヨリ觀レハ本
件實現ハ前途遼遠ニシテ其ノ場合ニモ軍ハ慎重ニ取運フ
考ナリ

九、軍ハ北支ニ獨立國ヲ作り又ハ現政權ヲ顛覆スルカ如キ意
圖ナシ

支、南京、北平、張家口ヘハ適當ノ方法ニ依リ聯絡ノ筈

~~~~~

支、北平、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

### (付記)

新疆旅行ニ關スル件

(昭和十一年十月 亞、一)

別紙ハ去ル十月十一日張家口出發新疆旅行ノ途ニ上レル在  
張家口領事館池田書記生ヨリノ第一報ニシテ内蒙最近ノ情  
勢ニ關スル有益ナル資料ト認メラル  
尙同書記生ハ張家口ニ於テ支那人ヲシテ組織セシメタル駱  
駝隊商ノ一行ト合シ西進ヲ開始スル豫定ノ處新疆入境困難  
ニシテ甚敷危險ヲ伴フ時ハ省境附近ヨリ引返シ主トシテ西  
部内蒙各旗及回教徒(漢回)地帯ノ調査ヲ試ミ隊商ハ何トカ  
シテ入新セシメ將來ノ礎石トスル計畫ナリ

### (別紙)

島津様

池田 克己 頓首

十一日張家口出發十一日德化一泊十二日西蘇尼特一泊十三  
日百靈廟ニ到着致候駱駝隊未着ナレハ當分當地ニ滞在待機  
スルコトト致候

629

昭和十一年九月30日

在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

德化駐在の田中機關長による綏遠攻略の準備  
について

付記 昭和十一年十月、東亜局第一課作成

内蒙情勢に関する池田書記生の現地報告につ  
いて

張家口 9月30日後発  
本省 10月1日前着

### 第二一〇號(極秘)

關東軍司令部參謀田中中佐ハ現職ノ儘德化機關長ニ就任シ  
軍政府内部ノ人事ヲ一新スルト共ニ天津軍及當方トノ聯絡  
ノ緊密ヲ圖リ着々綏遠攻略ノ準備ヲ進メツツアリ蒙古側ノ  
兵力ハ王英ノ五千ヲ先鋒部隊トシ李守信ノ第一軍五千六百  
ヲ之ニ加ヘテ作戰部隊トシ德王ノ第二軍五千六百(一師ヲ  
一千四百トス)ヲシテ治安維持ニ當ラシメ謀略成ラサル場  
合ハ關東軍ノ出動ヲ見ル筈ニシテ目下頻リニ軍需品ノ輸送  
ヲ行ヒ居ルカ發動時期ハ本年冬期ト豫定サレ居レルモ或ハ  
來年ニ持越サルルヤモ知レサル由ナリ本電特ニ部外秘

德化田中機關長ヨリハ小生ノ旅行ニ對シ各軍側並航空會社  
出先機關ハ必要ナル援助ヲ與フヘキ旨ヲ通牒シ吳レ頗ル好  
都合ニ候間御悅ヒ被下度候

蒙古ノ新情勢ニ關シ早々亂筆ヲ走ラセ候間御判讀被下度矛  
盾亂次ハ豫メ御諒承置願上候

十月十四日夜

於 百靈廟

尙今後モ出來得ル限り御手紙差上ク可候間右様御合置願上  
候

一、德化機關長田中隆吉ハ關東軍司令部參謀兼任ノ爲内蒙古  
各機關(綏遠ヲ含ム)ヲ命令スル事力出來軍側工作ハ著シ  
ク統制セラレ進捗シツツアリ  
二、内蒙古軍政府(正式名稱)ノ組織ハ左ノ通り

主席 雲王一總裁德王

參謀部 李守信  
參議部 補英達來  
辦公廳 德王兼任  
主任 德古來

副主席 沙王

## 辦公廳

軍事署 王宗洛  
 教育署 金永祥(近ク新京駐在代表)  
 內務署 西阿巴哈那兒王 ソムトドルヂ  
 外交署 托克托實業署 王慶三  
 財政署 德古來 司法署 德總管  
 交通署 干蘭澤

三、軍事 王英(謀略部隊六千)蒙古第一軍李守信五千六百第二軍德王五千六百第三軍雄王千王英部隊ハ王英ノ舊部及新シク招募セル漢人部隊ニシテ德王及雄王ノ部隊ハ全ク純蒙古部隊ナリ右ノ他卓察哈爾盟長ノ有スル保安隊アルモ其ノ實數不詳ナリ三千ト推定ス

## 四、謀略ノ概略

綏遠軍ハ現在平地泉ヲ中心トシテ四ヶ師(實數ハ二ヶ師ト見ラル)ヲ集中シ居ルヲ以テ之ト正面衝突ヲ爲スハ不得策ナリトシ王英ノ部隊ヲ以テ西進固陽ヲ侵ス夫ヨリ包頭ノ正面ヲ避ケテ(但シ場合ニ依リテハ包頭ヲ侵ス)五原方面ニ出ツ包頭ヨリ五原一帯ハ王英ノ舊地盤ナルト王英カ哥老會ノ三首ノ一人ナルヲ以テ該地ノ民團ハ抵抗ニ出ツルコト無キヲ保證セラル而シテ同時ニ榆林附近ニ在ル

王英ノ別動隊二千ハ機ヲ見テ綏遠、包頭方面ノ綏遠軍ノ牽制行動ニ出ツル外主力ハ黃河ヲ渡リテ王英主力部隊ニ合流ス李守信部ハ王英部ト交代シテ平地泉ノ正面ニ對シ常ニ遊撃戰ヲ行ヒ綏遠軍カ長驅シテ察哈爾盟ニ侵入スルコトアラハ關東軍ハ隨時出撃ヲ加フルコトトス  
 又綏遠軍カ綏遠、包頭ノ守備ヲ解キ固陽ヨリ五原一帯ニ巨ル王英部ノ掃蕩ヲ行フモノトセハ關東軍飛行機ハ德王機ノ「マーク」ヲ附シ右二都市ニ對シ威嚇爆撃ヲ加フルノミナラス戰闘機ヲ以テ行動中ノ綏遠軍ヲ牽制スルモノトス

## 五、準備概況

赤峰ヨリ德化ニ向ケ銃砲、彈丸ノ輸送ハ陸續行ハレ居リ尙糧秣ハ天津張家口ヨリ張北、德化、商都方面ニ天津綏遠ヨリ百靈廟ニ數千臺ノ「トラツク」カ關東軍特務機關ノ旗ヲ掲揚シテ連日輸送シツツアリ(現在天津ヨリ約一萬袋ノメリケン粉「トラツク」百八十臺分)綏遠ヨリ百靈廟ニ送ラレツツアル處支那軍ハ別ニ妨害セス見送り居ルノミ)右等軍需品ノ輸送カ一段落ヲ告ケタル際(即チ十一月初旬ヨリ中旬ニカケ)王英部隊ノ行動ハ開始ヲ見ル

## モノト思料セラル

六、現狀判斷 今次旅行ニ於テ一驚ヲ喫シタルハ張北、德化、德王府、百靈廟間ノ道路ノ完全ナルコトニシテ而モ石砥ノ如キ自動車路ハ別ニ修築セルモノニ非スシテ日本側ノ對蒙工作ノ爲ノ物資輸送ニ從事セル「トラツク」カ自然ニ走り固メタルモノナリト聞キ一昨年ノ秋百靈廟ニ旅セル折ノ惡道路ヲ想起シテ感慨無量ナルモノアリキ「トラツク」ハ現在五十乃至七十軒ノ時速ナリ各地ノ特務機關善隣協會、大蒙公司等ハ皆固定家屋ヲ修築シ日本婦人ノ姿モ見ヘ(但シ皆正式ノ妻ニシテ從來ノ臨時雇ニ非ルハ可慶賀)蒙古ノ荒原ニ在ルヲ想ハス

而モ支那側ノ蒙地ニ於ケル施設ハ全然一掃セラレ張家口、綏遠ニ於ケル漢人政權モ自己ヲ守ルニ急ニシテ何等積極的ナル態度ニ出テ居ラス王英ノ謀略部隊カ固陽ニ出ツルニモ後方聯絡ヲ絶タル虞無ク支那側ノ出撃ハ却テ後方聯絡ヲ絶タル虞アリ斯クテ緊張ニ疲レ平綏線ヲ斷タレテ山西方面ヨリ援軍並物資ノ供給ヲ失ヒタル綏遠部隊ハ戰意ヲ失フニ至ルヘシ而モ蒙古側ハ數十台ノ飛行機力常ニ必要アレハ出動スルノ強味アルヲ以テ綏遠工作ハ軍事

的ニ相當樂觀セラルヘキモノナルヤニ判斷セラル  
 七、將來ノ見透シ

綏遠攻略完了後ハ形式的ナル蒙古建國ナリ右ハ大体來春ト判斷セラル

先ツ問題トナルヘキハ王英部隊ノ整理也或者ハ曰ク王英ノ回教徒ト宜キヲ以テ寧夏ヨリ甘肅方面ノ回教徒工作ニ使用シ内蒙ヨリハ退出セシムヘシト説ク

次ハ財源ナリ現在ハ殆ント關東軍ヨリ支出セラレ察哈爾盟ヨリ軍政府ニ寄與セラレタルハ僅カニ七万弗ニ過キス(行政費トシテ五十万弗軍費ノ需品ハ不詳)今後トモ余リ期待スルコトハ不可能ナリ綏遠省ハ財政能力ハ若干ニ達スルヤハ確實ノ處ハ不明ナルモ大体年二百万乃至二百五十万(阿片收入ヲ含ム)ト推定セラル當分新タナル財源發見セラレサル蒙古國ハ察盟ノ年十萬ト綏遠ノ五十萬及鐵道收入トニ依リ其ノ國家財政ヲ維持スルコトトナルヘシハ、綏遠工作ト北支工作ノ關係

軍側ハ北支ノ不安定解消ハ蒙古政權ノ綏遠ニ於ケル確定及山西北半部ノ威壓ニ在リト爲シ第一步トシテ綏遠攻略ニ全力ヲ注キツツアリ余ノ現地ニ於ケル觀察ニ依レハ王

英部ノ謀略作戰ノ成功カハ〇%迄確實性ヲ有スルヲ以テ  
(勿論一、二ヶ月ノ短期間ニ成功セサル時ハ經費問題ニ  
於テ相當ノ困難ニ遭遇スヘキヤ必セリ何トナレハ綏遠軍  
ハ戰術の意味ニ於テハ蒙古側ヲ恐レス但政略ヲ含メル戰  
略の意味(日本側ニ依ル食糧彈藥ノ後方補給及飛行機ノ  
出動)ニ於テ日本ヲ背後ニ有スル蒙古軍ヲ恐ルルナリ)二  
〇%ノ殘余ハ日本側ノ北支政權並南京政權ニ對スル威壓―  
「ジエスチュアー」ヲ以テ援助スヘキモノト思料セラル  
即チ前述セル如ク綏遠ノ恐怖ハ單ナル戰術的「ステータ  
ス」ニ因由セス日本ノ「バック」ニ脅カサレ居ルモノナ  
レハ不幸ニシテ王英ノ謀略行動ニシテ成功セス相互持久  
ノ局面ニ陥ル時ハ綏遠側ハ蒙古與シ易シトシテ積極的ナ  
ル攻勢ニ出テ察哈爾盟並錫林哈爾盟ハ別トシテ烏盟ニ於  
ケル蒙古側勢力ヲ一掃スルカ如キ場面ヲモ想像セサルヘ  
カラス

右ハ危機脱却ノ爲ニハ京津、南京方面ニ於ケル日本出先  
官憲ヲシテ種々ナル機會ヲ通シテ日本側ノ蒙古工作ヲ斷  
乎タル決意ニ基クモノナルコトヲ支那側ニ「イムプレッ  
ス」スルコト必要ナリト思料スル次第ナリ

蒙古ノ實力無キハ別トシテ已ニ斯ク迄運ハレタル上ハ何  
トカシテ成功サスヘキナリ(以下脱)

編 注 「面白キ情報ナルカ遞送ノ途中機密保護サレ居ルヤ懸  
念ナキ能ハス末尾ノ(脱)ノ原因如何ニ依リテハ此ノ感  
ヲ深クスルモノアルベシ」との日高人事課長書き込み  
あり。

~~~~~

630 昭和11年11月8日 在張家口中根領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠省東部で内蒙軍と中国軍が対峙して本格
的軍事紛争へと発展する危険が高まり民心動
揺など時局切迫について

張家口 11月8日前発
本 省 11月8日前着

第②六六七號
綏遠時局情報
綏遠平地泉及大同ヨリノ報告ニ依レハ

(一)綏遠ノ省政府ハ三日省内各縣政府ヲ通シ各地糧。棧ニ對シ

糧穀類ノ在庫數量ヲ速ニ報告スルト共ニ自今糧穀類ノ外
部搬出ヲ禁止スヘキ旨ノ防穀令ヲ發出スルト同時ニ省内
運搬業者ニ對シテモ軍需輸送ノ萬全ヲ期スル爲當分ノ間
運輸業ヲ停止スヘキ旨通達セル趣ナルカ右ニ刺戟セラレ
事變動發近キヲ豫想セル綏遠ノ各穀物商ハ穀類ノ價格騰
貴ヲ見越シ盛ナル買占ヲ行ヘル爲穀類ハ一石ニ付一圓乃
至二圓方ノ暴騰ヲ示シ居レル趣ナリ

(二)綏東地區ニ於ケル内蒙獨立軍ト支那軍トハ一日興和東方、
三日卓資山北方五十支里ノ地點及大六號等ニ於テ前哨戰
ヲ試ミ居レルカ本格的衝突ノ危機ヲ孕ミツツ對峙ノ模様
ナル趣ナル處一方軍事委員會ハ省委員長代理トシテ黎。參
謀ヲ特派シ陶林一帶ノ支那軍防禦陣地ヲ視察セシムルト
共ニ第一線兵士ヲ督勵シ居レル趣ナリ

(三)綏遠ニ於ケル支那側ノ飛行場擴張、防空宣傳、塹壕構築、
壯丁募集及食糧買上等ハ時局切迫セルヲ思ハシメ綏遠新
聞檢査所カ軍記事掲載ヲ嚴重禁止セルニモ拘ラス人心ニ
大動搖ヲ來シ居リ德王、李守信及王英ノ蒙古人部隊及滿
洲國軍ハ十日以内ニ興和、平地泉、陶林ヲ突破シ綏遠ヲ
攻略スヘシトノ謠言盛ニ流布セラレ傳作義ハ既ニ西安ニ

逃亡セリ等傳ヘラレ省政府當局ハ謠言鎮撫ニ狂奔シツツ
アル模様ナリ

(四)大同ニ於テハ曩ニ結成セラレタル大原ノ共產同盟會等ヨ
リ派遣セラレタル者ノ地方工作漸ク顯著トナリタルニヤ
最近同地派遣所及鮮人醫師李。東。弼。方附近ニハ抗日救國、
打倒日本帝國主義、打倒日本領事館、打倒日本人及日貨
排斥等ノ樂書無數ニ行ハレ人心相當ニ硬化セルヤニ見受
ケラルル趣ナリ

尙綏遠在留民ハ四日ヲ以テ殘留セル滿鐵社員ハ引揚ヲ了
シ同地包頭、平地泉ニハ一般在留民ハ皆無トナレリ

~~~~~

631 昭和11年11月11日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠、寧夏、青海各省および内蒙各地における  
外国人の一律退去方外交部より要請について

南京 11月11日後発  
本 省 11月11日後着

第⑨一四號  
川越大使ヨリ

張外交部長ハ十日附照會ヲ以テ綏遠、寧夏、青海等ノ各省及内蒙各地ニ於テハ現ニ剿匪進行中ニシテ軍事上必要ノ措置ヲ執ルニ付テハ支那政府ハ外。僑保護安全ノ見地ヨリ暫ク該地方遊歴護照ノ發給ヲ停止ス現ニ同地方ニ居住中ノ外僑ハ一律速ニ撤去方取計ハレ度ク然ラサレハ支那政府ハ保護ノ責ヲ負ハストノ旨申越セリ(往電第八九二號參照)  
原文郵送ス  
支、北平、天津、張家口、鄭州、滿へ轉電セリ

632 昭和11年11月14日 在広東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

綏遠省東部で激化しつつある内蒙軍と中国軍との軍事衝突に関する中国紙報道振りについて

広東 11月14日後発  
本省 11月14日夜着

第五三六號

十四日ノ越華報ハ綏東、陶林ニ大戰發生スナル見出シノ下ニ中央社及南華社ノ左記要旨ノ電報ヲ掲ケタリ  
「陶林方面ニテハ十二日夜激戰發生シ某國飛行機ハ連日前

線ヲ飛ヒ偽軍ノ進撃ヲ援助ス十三日朝某國飛行機三臺ハ平地泉ヲ偵察シ且爆彈數個ヲ投下セリ傳作義同地ニテ督戰中ナリ

「十二日綏遠ノ東北二帶ニ亘リ小衝突アリ偽軍十一日以來ノ戰鬪振ハ從前ノ如ク散漫ナラス戰車十餘輛參加シ居レリ某國ハ偽軍ノ軟弱ニ不滿ヲ抱キ其ノ指導的立場ヨリ主演者タラントシ居ルカ百靈廟附近ニハ日軍六百名到着シ尙熱河ヨリ偽軍ヲ商都二帶ニ増派中ナリ

支、滿、北平、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

633 昭和11年11月16日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

綏遠問題に対しては断然武力解決を實行すべしとの中国紙報道振りについて

南京 11月16日後発  
本省 11月16日夜着

第九二七號

綏東問題ニ關シ本十六日ノ新京日報ハ察綏ノ匪禍速ニ勦滅

634 昭和11年11月17日 在張家口中根領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

興和周辺において王英率いる内蒙部隊が中国軍と本格的戦闘を開始したとの情報について

張家口 11月17日後発  
本省 11月17日夜着

第二七八號

大同方面ノ情報左ノ通

「蒙古側王英部隊ハ十四日以來主力ヲ以テ興和附近ノ山西軍ト交戦シツツアリ趙承綏ハ萬一ノ場合大同ノ防備薄弱ニシテ支フヘカラサランコトヲ惧レ同地平地泉間及同地陽高間ニ於テ平綏線ヲ切斷スル計畫アリト稱セラル  
「王英側ハ大同方面ニ於ケル中央軍ト山西軍トノ軋轢ニ乗シ李服膺及趙承綏部隊ノ一部旅長等ヲ通シ山西軍ヲ兵變ニ導カントシ其ノ工作相當進展シ居ル模様ナリ

「前線ヨリ大同ニ後送セラレタル負傷兵ハ五十名以上ニ達シ蒙古軍ノ背後ニ日本アリト宣傳シテ民衆ノ對日反感ヲ煽リツツアル一方公道團ノ指導ニ依ル排日運動漸ク露骨トナリ十五日大同基督教青年會館ニ於テ抗日具體策ニ關

性アルモノト認メラル  
支、北平、天津、張家口へ轉電セリ

スル協議開催セラレタリ

四、現在同地ニアル本邦人ハ十年以上開業シ來レル朝鮮醫師  
一戸(支那人ヲ妻トス)ノ外當館派遣警察官四戸、特務機  
關關係者一戸及滿鐵派遣員二名ノミナルカ朝鮮人醫師ハ  
日本ノ走狗ナリト患者等ハ寄付カサル状態ニテ警察官  
ハ目ノ仇トセラレ居レリ滿鐵社員ハ十七日引揚クル豫定  
ナルヲ以テ不取敢警察官ノ家族收容旁緊急指示ヲ與フル  
爲十六日夜古川園書記生、大脇巡查ヲ同地ニ派遣(既ニ  
貴電ヲ以テ承認ヲ經タリ)シタルカ本日更ニ派遣所長宛  
特務機關關係者トモ緊密ニ聯絡シ適當ノ時機ニ引揚クヘ  
キ旨電報ヲ以テ指示シ置キタリ尙鮮人醫師ハ妻ノ名義ニ  
テ土地建物ヲ所有シ居レリ目下ノ處引揚クル意思ナキモ  
ノノ如シ爲念

支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

漢口ヨリ鄭州ヘ轉電アリタシ

635 昭和11年11月18日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠援助運動推進に関する中国各新聞社の宣

伝振りについて

南京 11月18日後発  
本省 11月18日後着

第九三一號

往電第九二七號ニ關シ

其ノ後各新聞社ニ於テモ慰問金品ノ代理受付ヲ開始スル等  
本項運動ハ益々擴大ノ模様ニ見受ケラルル處中央宣傳部ハ  
國防建設擴大ノ爲更ニ昨十七日要領左記ノ如キ「國民貢獻  
一日所得運動推行辦法」七箇條ヲ頒布シ之カ實施方ヲ全國  
各級黨部ニ命令セル趣ナリ

左記

一、各地黨部及政府ハ本運動促進ノ爲同様名稱ノ委員會ヲ組  
織スヘシ

二、個人ハ一日ノ所得、會社商店ハ一日ノ營業所得ヲ又機關  
學校團體等ハ一日ノ事務經費ヲ獻金スヘシ

三、民衆及地方ノ有力者ニ義捐ヲ勧誘スヘシ

四、集金ハ總テ中央財政委員會ニ送付スヘシ

支、北平、天津、張家口、滿ヘ轉電セリ

636 昭和11年11月18日 在広東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件に関連して日本を非難する中国紙報  
道振りについて

広東 11月18日後発  
本省 11月18日夜着

第五四五號

往電第五三六號ニ關シ

當地各漢字紙ハ綏東方面ノ戰況ニ關シ大々的見出ヲ附シ中  
央社、華南社等各地ノ通信ヲ掲載シ居レルカ十八日廣州民  
國日報ハ「偽軍ノ綏遠侵略ハ日本ノ大陸政策遂行ニアリ先  
ツ綏東ヲ窺ヒ更ニ内蒙古ヲ併吞シ中國ノ支配權ヲ獲得セン  
トスルニアリ之カ目的達成ノ爲國交調整ヲ説キ外交交渉ニ  
入レルモノナルカ防共、北支ノ兩問題モ其ノ重心ハ大陸政  
策遂行ニアリ今次ノ積極的綏遠進出ハ外交上偶然ノ副作用  
ニアラス」ト論シ同日ノ國華報ハ「某國ハ(一)蒙古占領ニ依  
リ大陸政策ヲ達成セントシ(二)蘇聯ト中國邊疆トノ連絡ヲ遮  
斷セントシ(三)綏東地方ノ奧地ハ英米ノ注意ヲ惹カス自由ニ  
蠶食シ得(四)蒙古自治ノ美名ニ依リ國際的非難ヲ避ケ得ヘシ

ト思考シテ茲ニ綏遠ヲ窺ヒタリ仍テ中央政府ハ實力ヲ以テ  
蒙匪ノ綏遠侵入ヲ阻止セサルヘカラス然ラサレハ平綏沿線  
及山西、陝西ノ奧地モ河北ト同一ノ運命ニ陥ルヘシ」ト論  
シ居レリ

支、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

637 昭和11年11月18日 在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛

寧夏省政府のわが方特務機關撤退要求に關す  
る阿拉善よりの池田書記生報告について

機密第四八九號 (11月26日接受)

昭和十一年十一月十八日

在張家口

領事代理 中根 直介(印)

外務大臣 有田 八郎殿

池田書記生ヨリノ阿拉善通信呈報ノ件

客月三十日包頭ヨリ阿拉善ヘ飛行セル池田書記生ヨリ別紙  
ノ如キ通信アリタルカ寧夏方面ノ模様ヲ觀察スルノ好資料  
ト思料セラル、ニ付御參考迄茲ニ轉報申進ス

(別紙)

於定遠營 十一月二日

前便にて申上候通り十月三十日當地に飛來目下特務機關と同一院子内の一室を借受け額濟納に參る機を伺ひ居候

三十一日阿拉善旗長親王達氏を往訪會談約三十分にて及候達王は蒙古王族中滿洲科爾沁王と並び最も家柄高く夫人は現滿洲國皇帝の夫人の妹に候永年北京に住まひせる結果蒙古語を解せず流暢なる北京語に候達王の言に依れば寧夏省政府は中央政府の命に依り特務機關の撤退を迫り居り自分としては出来るだけ日本側の便宜を計り度きも實力の關係上思ふに不任此の處日本と中央の板挟みと成り困惑なり蒙古の獨立は双手を舉げて賛成且は滿洲國康德帝とは親戚の間にもあり何とか接近し度きも阿拉善旗は交通の關係上危急の際日本側の實力援助を期待し得ざるを以て此の間の苦衷を何卒御諒解有度との事にて候ひき定遠營と寧夏は自動車にて四時間駱駝にて二日乃至三日包頭とは寧夏經由に非れは途中の沙漠と山岳の爲自動車交通は不可能に候定遠營は人口約二千余包頭、寧夏との往來最も頻繁にして一部甘

古は條約上(セントピータースブルグ條約と記憶す)開放されある事を説き出せる處葉は右條約は何條約にて何時のものなりやと問ふ依て日清通商條約並露清條約を説明せるに曰く清朝の結びし條約が今たに有效なるとは誠に驚き入つたる暴論かな余は些か國際間の事情に通ず然かき笑話は止めてして貰ひ度しと相手にせず依て(二)我等は定遠營の治安を良好なりと觀且は省政府並旗政府の警備力を信頼し居るがと申せは談半はにして反動分子の機微なる行動に付ては貴方も承知の處而も一旦人命に關すれば必ずや日本は之を口實にして法外なる要求を爲す我等領土の主權と行政の完整とは亡國奴に非る限り死すとも守るへしといひ全く話に成らず(三)に付ては防共の任務に付此處に來駐する以上共產軍の活動旺盛なれば益々その駐在の必要ありといへは失禮乍ら定遠營に數名の日本人がゐても共產軍の活動は止まるべし且は支那の共產軍か日本と何の關係ありやといふに付西班牙の内亂を説明すれば歐洲各國は地續きなり日本と支那は海を距つ他人の國の事は關心を有たるゝ要なし支那の事は支那で片づくへし何れにせよ撤退すへし中央の命令は絶對なりと頑張る達王見兼ねて特務機關に於ては關東軍

肅省民勤縣とも商人の往來あり

阿拉善旗の蒙民人口は約八萬漢人約三萬回教徒約一萬乃至二萬合計約十二、三萬の由に候

喇嘛廟八個所喇嘛僧約一万(寺院に常住するものは二、三割に過ぎずとの由)達王は目下折角新式教育に留意し喇嘛僧の漸減を計り居る旨語り申候

十一月一日寧夏省政府秘書長葉氏來阿特務機關の撤退問題に付會談致度に付早速王府に來られ度とあり午後三時橫田機關長倉永保田中久信並小弟王府に參申候

葉氏は四川人の由先づ開口一番你們怕死不怕死とあり夫より中國國家還不至於亡國我們不是亡國奴と續き叱驚してゐる我等四名を尻目にかけて日本人の中日親善中日合作の口頭禪なる事滿洲國の成立云々とかきまぜて三十分が程を饒舌り捲り候依て小弟は特務機關の撤退に付商議の旨承はり我等此處に來りしかその撤退理由を手短かに御説明あり度と申せる處(一)南京政府外交部發行の護照なき事(二)漢口、北海、上海等に發生せる如き事件の發生を危惧せる事(三)共產軍已に金積、民勤に迫り治安の維持上外人の所在は困る事の三ヶ條を並へ候間機關長と相談の上(一)護照の性質内外蒙

に指示を仰きて返答せられては如何と仲裁し右にて折合ふへしと當方申出づるに葉は明日中に返事なくば當方は斷乎たる處置をとるへしと威張り會見を終了せり此の間約二時間

十一月二日早朝諜者來り寧夏兵約百名「トラック」七台にて定遠營を去る約二里(日本里)の部落に來り待機中なりとの話に更に調査せしめたる處事實なりしかば暗號、書類等を燒棄し引揚の準備を爲す目下の事態は以上の如く候(十一月二日午後二時)

小弟は特務機關か撤退するも出来るだけ方法を講し駱駝にて額濟納に赴く豫定にて目下折角運動中に御座候額濟納迄は二十五日前後の旅に候 右草々

池田書記生

中根領事殿

十一月六日朝

前略

寧夏省政府の定遠營特務機關撤退要求に關し後報可仕候德化特務機關は十一月四日付を以て馬鴻逵に對し防共並に

中根領事殿

638 昭和11年11月20日 在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

興和および紅格爾圖方面の戦況および綏遠方面において察哈爾省北部や多倫の奪還が叫ばれ抗日氣勢横溢の状況について

張家口 11月20日前発  
本省 11月20日夜着

第二九二號

當地支那側入電ニ依レハ興和及紅格爾圖方面ノ戰況激烈トナリタル爲傳作義ハ綏遠部隊ヲ率ヒ十六日早曉平地泉ニ到着シ部隊ノ直接指揮ニ當リ居レル一方達密陵蘇龍ノ蒙古騎兵部隊及第十三軍(沽恩伯)所屬二個師ハ共ニ李服膺ノ指揮下ニ入り陶林一帶ノ防備ニ當ルコトナリタル趣ナリ尙當地支那人士間ニハ晉綏軍ノ積極的防禦ハ唯國土防守ノ爲ニ過キサルモ中央ノ中日交渉ニ於テ日本カ綏東問題ハ支那ノ内部問題ニシテ毫モ日本ト關係ナキ旨再三聲明セルニ藉口シ蔣介石ハ洛陽乃至ハ太原ニ各將領ヲ招集シ中央ハ全

池田書記生

中日合作聯絡の使命を有する特務機關を強制的に撤退を迫るか如き事ある際は抗日の最も惡質なるものと認め殊に實力に訴へる場合は直ちに寧夏省城の爆撃を実施すへしと警告電報を發したり  
德王は蒙政會委員長名義を以て同日付阿拉善旗長達理扎雅に對し寧夏省政府と同一態度に出づるを戒しめ然る場合は日本側に於て寧夏省政府と同一待遇を受くるに至るへしと警告電報を發せり  
關東軍新京司令部は十一月五日付を以て定遠營機關の撤退を求むる如きは事由の如何を問はず共匪に合流せるものと認むるに付主席の深甚なる反省を求む同時に共匪の寧夏省侵入の事實に付防共の怠慢を攻むとの電報を發したり  
右等電報の發出と同時に軍側は包頭に爆撃機數台を待機せしめ居れり  
寧夏省政府及旗政府よりは其後何等の消息に接せず恐らく撤退要求は有耶無耶の中に葬り去られ或ひは此を契機として寧夏省城と定遠營間の自由交通並省城の居住權等か認めらるゝに至るへきかとも被存候

力ヲ擧ケテ晉綏軍ヲ援助ストノ決心ヲ示スニ至リ綏遠方面ニ於テハ國土防禦ノ見地ヲ一變シ察北六縣ヨリ多倫ニ進攻セントスル氣勢横溢シ居レルカ右ハ所謂宣戰セサル抗日戰トモ稱スヘク綏東問題ハ實ニ日支衝突ノ導火線ナリ云々ノ説ヲ爲ス者多シ御參考迄  
支、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

639 昭和11年11月20日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠援助運動の發展状況につき報告

上海 11月20日後発  
本省 11月20日夜着

第五三九號

當地支那側ノ綏遠援助運動ニ付テハ支發閣下宛屢次電報ノ通ナル處其ノ後右運動ハ日ヲ逐ツテ益々熾烈トナリ十八日ニハ上海市商會、中國赤十字總會、上海地方協會聯合シテ綏遠剿匪慰勞救護委員會ヲ組織シ杜月笙、虞洽卿、王曉籟、錢永銘、陳光甫、李銘、林康侯等凡ユル財界有力者ヲ委員

ニ擧ケ大々的ニ義捐金募集ノ廣告ヲ新聞ニ掲載シ十九日ニハ中國文化建設協會主宰ノ文化綏遠剿匪後援委員會成立シ各方面ニ綏遠援助ノ通電ヲ發シ大規模ノ寄附金募集ヲ開始セル外市民聯合會、市工會、婦女團體、文(化)團體、學界(大、中、小學教員聯合會及各學校學生)ヲ初メトシ旅館業者、娛樂場、大商店ヨリ市營貧民住宅ニ至ル迄一齊ニ各自後援會ノ組織乃至ハ義捐金ノ募集等ヲ開始スルニ至レルカ各漢字新聞ハ連日紙面一面ニ是等各團體ノ宣言、通電等ヲ大々的ニ書立テ居ル外當局激勵ノ社説、投稿等ヲ掲ケ居リ特ニ上海市社會局ハ公然本件運動ニ參加シ「援。綏。捐。欸。統一辦法」ヲ制定シ各學校、機關及團體ニ通達スル等運動ハ上海全市ニ普及シ官民一致之ニ當リ居ル如キ觀アル處

前記地方有力者、新聞(新聞検査所カ政府ノ方針ニ基キ嚴重ナル取締ヲ爲シ居ルコト御承知ノ通)並ニ市社會局ノ態度等ハ何レモ中央乃至市政府側ノ對綏遠問題ニ對スル方針ヲ反映シ居ルモノニシテ注目ニ値ス  
又之カ爲當地方ニ於ケル一般民衆ノ對日空氣ヲ急激ニ惡化セシメ若ハ本運動ニ熱心ナル學生等ノ間ニ再ヒ客年末ノ如キ過激ナル排日運動ヲ醸成セシムル危險ナシトセス屢

次往電ノ紡績罷業、邦人暗殺「テロ」行爲ノ續發等トモ關聯シ當地方ノ形勢ハ甚タ憂慮ニ堪エサルモノアルヤニ認メラル

尙右ニ關シ館員カ市政府側ヨリ得タル情報ニ依レハ吳市長ハ十八日本省發言人カ日本ハ綏遠問題ニ無關係ナリトノ發表ヲ爲シタルコトカ十九日當地各漢字紙ニ報道セラレタルコト(支發閣下宛電報第九「四號」等ヲ援用シ本件綏遠援助運動ハ支那國內ノ匪賊討伐ニシテ全然對内的問題ナレハ何等日本ニ氣兼スル必要ナシト稱シ居ル趣ナリ(右吳市長ノ態度ハ發表セサル様セラレ度シ)

支ヘ轉報シ在支各總領事、北平ヘ轉電セリ

640 昭和11年11月20日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件は日中全面衝突に發展する危険性が多分にあるとの中国側一般の認識について

第九二五號

上海 11月20日後発  
本省 11月20日夜着

感が激増される見通しとの錢永銘内話について

上海 11月20日後発  
本省 11月20日夜着

第五四〇號

往電第五三九號ニ關シ

錢永銘カ十九日船津ニ内話スル所ニ依レハ綏遠援助義捐金募集運動ハ元々抗日救國會ノ主宰ニテ計畫セラレ居タル處同運動ヲ救國會一派ニ委ヌルトキハ排日氣勢一層盛トナリ事態益々惡化スルノ惧アルヲ以テ財界有力者協議ノ上冒頭電ノ通り市商會、地方協會及赤十字總會三團體聯合ノ委員會ヲ組織スルコトトナレル經緯アル趣ナルカ同運動ノ結果ハ何レニスルモ相當廣範圍ニ亘リ對日反感ヲ激成スルニ至ルヘシトノコトナリ御參考迄

北平、在支各總領事ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

642 昭和11年11月21日 在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠方面の戦況に関する冀察政務委員会側より入手した情報について

綏遠事件ニ關スル當地支那人側ノ觀測ヲ綜合スルニ同事件ハ日本軍部カ全然外務省ト關係ナク起シタルモノニシテ明カニ南京交渉ヲ無視セル遣口ニ外ナラサルカ同事件ノ成行ハ極メテ重大ニシテ傳作義軍カ勝利ヲ得ル場合ハ蒙古軍ヲ支持シツツアル日本軍トシテハ其ノ儘戈ヲ引クカ如キコトナカルヘク又若シ傳軍カ敗北スルニ於テハ蔣介石トシテハ輿論ノ手前モアリ大部隊ノ軍隊ヲ動カスニ至ルヘク何レニスルモ日本軍トノ正面衝突ノ危険性多分ニアリト見ラルモ其ノモ日本カ假令北支ノ或地域ヲ手ニ入レ得タリトスルモ其ノ將來ハ決シテ日本ノ思フ様ニ行カサルコト明白ナルノミナラス右ニ對シテハ中南支ニ於テ從來ヨリモ大規模ニシテ且惡質ナル排日ノ伴フコトヲ覺悟セサルヘカラス斯ル場合支那側政府機關ハ日本側ヨリ排日取締ヲ要求サルトモ之ニ應シ得サル立場ニ陥ルヘシト爲シ居レリ

滿、北平、在支各總領事ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

641 昭和11年11月20日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠援助運動の結果相当広範圍にわたり対日反

北平 11月21日後発  
本省 11月21日夜着

第六二六號

綏遠方面ノ戰況ニ關シ冀察側入手ノ情報(劉汝明、傳作義ノ通電及冀察特派ノ密偵報告)大要左ノ通り(西田顧問ノ内報)何等御參考迄

一、綏東方面ハ十一月十一日ヨリ前哨戰ヲ開始シ漸次各地ニ波及ス

二、浪人約六十名大同附近鐵橋破壊ヲ企テタルモ失敗ニ歸ス

三、同日匪軍約三千「ホンゴルト」ノ南頭山ヲ攻撃飛行機七

名之ヲ掩護爆彈八十個ヲ投下シタルモ綏遠軍彭毓斌師ハ地方民團ト協力防戦之ヲ擊退ス

四、同日夜十時王英軍金甲三旅及李守信軍尹寶山師合計約四千ハ砲二十五、六門掩護ノ下ニ「ホンゴルト」ヲ四回ニ亘リ猛襲シタルモ擊退ス

五、十六日早朝日本飛行機平地泉ヲ偵察ス午前九時飛行機十三臺「ホンゴルト」ヲ空襲爆彈百六十餘ヲ投シ續イテ蒙匪約四百同地ヲ攻撃シタルモ擊退ス

六、以上ノ戰鬪ニ於ケル蒙匪軍ノ死者百餘(其ノ内ニ騎兵團

長朱思五及營長七名、連長數名アリ）負傷百四十餘（商都日本醫院ニ收容）ニシテ綏遠軍ハ死者二、負傷者十一ナリ

七十六日興和方面ノ匪軍（張萬慶ノ部下約四千）ハ南壕塹一帯ヨリ進出ヲ企ツ

ハ現在判明ノ匪軍勢力約二萬ニシテ平地泉、卓資山間平綏線遮斷ヲ企圖シツツアルカ如シ

支、在支各總領事、張家口、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

643 昭和11年11月24日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛（電報）

内蒙軍への日本側援助を肯定した喜多武官の  
談話は日本外務省の声明に矛盾していると非  
難する中国紙報道振りについて

付記 昭和十一年十一月二十一日公表

「綏東方面ニ於ケル内蒙古軍ト綏遠軍ノ衝突  
ニ關スル外務當局談」

當ラサルヘカラス云々ト論シ居レリ

支、北平、天津、張家口へ轉電セリ

### （付記）

綏東方面ニ於ケル内蒙古軍ト綏遠軍ノ衝突ニ關スル

外務當局談

（十一月二十一日公表）

滿洲國接壤地方ニ於ケル事態ニ關シテハ帝國ノ常ニ關心ヲ有スル所テアルカ、今次綏東方面ニ於ケル内蒙古軍ト綏遠軍トノ衝突ハ内蒙古側ト綏遠側トノ紛争テアツテ帝國ノ關スル所テナイ、從ツテ内蒙古軍ノ行動ニ對シテハ政府ハ固ヨリ軍ニ於テモ何等援助ヲ與ヘテキナイコト勿論テアル。

644 昭和11年11月24日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛（電報）

中国財界有力者による現地視察実施など綏遠  
援助運動の現状につき報告

上海 11月24日後発  
本省 11月24日夜着

### 第九五〇號

本二十四日ノ各紙ハ喜多武官カ「アーベンド」ニ對シ日本カ綏東問題ニ關聯セルハ事實ニシテ日本軍人カ蒙古軍ニ對シ援助ヲ與ヘ察北ニ於テ大規模ノ軍事學校ヲ設立シテ蒙古軍ヲ訓練シ飛行機、「タンク」、鐵甲車及軍需品等ヲ賣渡セル事實アルヲ語り要スルニ日本ハ蒙古ヲ其ノ統治下ニ置カントスルモノナルコトヲ率直ニ認メタリトノ記事ヲ大文字ニテ掲載シ居レルカ新民報及中國日報等ハ之ニ關シ論說ヲ揭ケ日本外務省ハ綏東問題ニハ日本ハ關係ナシト聲明スル一方關東軍ハ斷然援助ヲ聲明セリトノ說傳ヘラレ矛盾ノ折柄喜多武官ノ談話ハ之ニ斷定的結論ヲ與ヘタルモノト言フヘク其ノ效ヤ大ナリト言フヘシ吾人ハ之ニ代リ綏東問題カ全ク國家存亡ノ重大問題ナルヲ痛感シ之ヲ憂フルト共ニ一方日本カ其ノ侵略的野心ヲ世界ニ公表シ世界人士ノ「疑惑」ヲ一掃シタルヲ欣フモノナリ

日獨同盟等ニモ顧ミ綏東問題ハ實ニ支那民族生存ノ爲ノ血戰ノ序幕ナリ交渉ノ如キ斷然之ヲ打切り綏東問題ノ解決ニ

南京 11月24日後発  
本省 11月24日後着

### 第五五四號

往電第五三九號ニ關シ

其ノ後當地ニ於ケル綏遠援助運動狀況左ノ通

「冒頭往電ノ綏遠剿匪慰勞救護委員會ハ代表ヲ北上セシメ親シク前線將士ヲ慰勞シ且綏遠方面ノ實狀ヲ視察セシムルコトトナリ代表ニ選ハレタル王曉籟（市商會會頭）、林康侯（銀行家代表）、陸京士（市黨部及警備司令部代表）、顏福慶（赤十字會代表）、黃任之（地方協會）等七名ハ本二十四日朝歐亞航空飛行機ニテ太原向ケ出發セルカ一行ノ北上ニ付上海市長吳鐵城ハ特ニ閻錫山及傳作義ニ電報シ一行ニ對スル便宜供與方ヲ依頼シ之ニ對シ閻等ヨリ歡迎電報接到シ居ル趣ナル處一行ノ現地視察ハ當地支那側有力者ノ北支事態ニ對スル認識ヲ深カラシムル點ニ於テ重大ナル意義アリ相當注目ニ値スルモノト認メラル

②當地民衆ノ義捐金應募額ハ總額既ニ五十萬元ニ達シタルカ其ノ後モ引續キ各種新團體ノ義捐金募集行ハレ居リ市政府及市黨部ニ於テハ該運動ノ統一ヲ圖ル爲統一委員會ヲ組織スヘク目下具體案作成方協議中ナル趣ナリ

③國民政府ニ於テハ王曉籟、杜月笙等カ今回率先綏遠援助

運動ニ盡瘁シ居ル功ヲ多トシ廿一日附ヲ以テ兩名宛激勵  
電報ヲ寄せ來リタル趣ナリ

四、新聞ハ連日當地及全國ノ義捐金募集運動狀況並ニ綏遠ニ  
於ケル戰況ヲ大々的ニ報道シ戰爭ハ綏遠軍側優勢ナルカ  
如ク宣傳ニ努メツツアリ又日本カ蒙古軍ノ背後ニアリ之  
ヲ操縦シ居ルカ如キ書振ノ記事モ相當多數見受ケラレ居  
レリ

北平、在支各總領事へ轉電シ、支へ轉報セリ

645 昭和11年11月26日 在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

百靈廟の陥落など綏遠方面の戦況に関する冀  
察政務委員会側より入手の情報報告

北平 11月26日後発  
本省 11月26日後着

第六四〇號

二十五日西田顧問カ冀察側入手ノ情報トシテ内報スル所大  
要左ノ通り何等御參考迄

百靈廟ハ二十四日朝綏遠軍ノ手ニ歸シ李守信軍敗退ス

一行ハ張學良ヨリ差廻ノ飛行機ニテ二十三日上海出發先ツ  
西安ニ赴キ張學良、楊虎城、邵力子等ヨリ綏遠匪軍討伐ニ  
關スル意見ヲ聴取シ更ニ太原ニ飛ヒ閻錫山ヨリ同様匪軍討  
伐ノ詳細ナル計畫並ニ綏遠援助運動ニ關スル現地側ノ希望  
ヲ聴キ次テ綏遠ニ飛ヒ傳作義ヨリ前線戰況ニ關スル説明ヲ  
受ケタルカ特ニ百靈廟ノ戰鬪ニ付傳ヨリ同地ハ多倫、張北、  
商都ヨリ西方額濟納ニ達スル匪軍戰略上ノ中心ニシテ同地  
占領ハ重大ナル意義アリ從テ匪軍ハ必ス大舉反撃シ來ルヘ  
キモ綏遠軍側ニハ既ニ充分ノ用意アリ又該地ノ戰鬪ニ於テ  
多數ノ武器、軍用品、糧食等ヲ鹵獲シタルコト  
俘虜中ニ數名ノ日本人ラシキ者居リタルコト、日本側ト關  
係アル多數ノ文書ヲ發見シタルコト等ヲ告ケラレタルカ歸  
途洛陽ニテ蔣介石ト面會シ蔣カ綏遠匪軍討伐ニ對シ充分ノ  
決意ト準備トヲ有スルコトヲ詳細告ケラレ一同欣然歸來セ  
リ云々

向一行ノ綏遠行ニ關シ市民聯合會幹部ヨリノ内密聞込トシ  
テ謀者ノ報告ニ依レハ曩ニ中央黨部ヨリ市黨部宛「援。綏。即  
抗日」ナレハ大々的ニ援綏運動ヲ起スヘキ旨ノ密令アリ當  
地有力者ハ蔣介石カ今回ハ綏遠肅正乃至對日戰爭ニ付充分

ニ中央軍飛行機三十二臺綏遠ニ歸着待機中

三孫殿英ノ冀。南保安總司令就任ニ付豫テ宋哲元トノ間ニ話  
合アル處種々ノ事情ノ爲未タ發表ニ至ラサルカ若シ此ノ  
上遷延スルトキハ孫ハ王英軍援助ノ爲綏遠ニ赴クト言ハ  
ル

支、在支各總領事、張家口、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

646 昭和11年11月28日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中国財界有力者の綏遠訪問は蔣介石の抗日決  
意を確認することが真の目的であるとの情報  
について

上海 11月28日後発  
本省 11月28日後着

第五六六號

往電第五六三號ニ關シ

二十七日王曉籟等綏遠慰問代表ノ發表セル共同聲明書大綱  
左ノ通

ノ決意ヲ有シ居ルモノト信シ居リ右蔣ノ決意カ支那特ニ當  
地經濟界ニ及ホス影響ノ甚大ナルヲ惧レ蔣ノ眞意ヲ確ムル  
コトカ實際ノ用務ナリシ趣ナリ眞偽確カナラサルモ爲念  
冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

647 昭和11年11月29日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件に関する外交部当局談話を掲載して全  
力抗戦の決意を示す中国紙報道振りについて

南京 11月29日後発  
本省 11月29日後着

第九七八號

外交部發言人ハ昨二十八日夜「今次蒙匪ノ綏遠侵略ニ對シ  
テハ政府ハ其ノ職責ニ從ヒ其ノ背景ト魂膽ノ如何ヲ問ハス  
斷然之ヲ掃蕩スヘク這ハ主權國家當然ノ行爲ニシテ第三者  
ノ非議シ得ヘキ所ニアラス又國內ノ共匪ニ對シテハ自力剿  
匪ノ一貫政策ニテ進ミ以テ完全ナル肅清ヲ期スヘク我政府  
ノ赤化防止ニ對スル決心ト成績トハ既ニ世界各國ノ認ムル  
所ニシテ斷シテ虚偽ノ宣傳ノ胡魔化シ得ル所ニアラス支那

ハ勿論平和ヲ愛好スルカ故ニ隣邦トノ睦誼ニ努メ以テ世界平和ヲ期セントスルモ唯領土主權ノ完成ハ國家生存ノ必須條件ナレハ如何ナル第三國ト雖又如何ナル口實ヲ以テスルモ之カ侵犯或ハ干涉ヲ許サス萬一不幸ニシテ此ノ種非法ノ侵犯或ハ干涉發生セル場合ハ必ス全力ヲ盡シテ防衛シ以テ國家ノ職責ヲ盡スヘシトノ談話ヲ發表セル趣ニテ

本二十九日ノ各紙ハ一齊ニ之ヲ登載シ同時ニ又大文字ニテ關東軍ノ聲明ヲ掲載シ夫々論說ヲ掲ケ居レルカ前者ニ對シテハ實ニ機宜ノ聲明ト言フヘク國民ハ此ノ政府ノ合理的政策ヲ承認スルト共ニ上下一致シテ更ニ大ナル力ノ發動ニ邁進スヘク日本ニシテ若シ日支間ニ尙幾分ニテモ邦交ヲ保留セントセハ今カ思ヒ直スヘキ唯一ノ秋ナリト言ヒ又後者ニ對シテハ日本ハ遂ニ假面ヲ脱キ捨テ大陸侵略ノ正体ヲ現ハシ來レルカ然シ今日ノ支那ハ決シテ昔ノ支那ニアラス、サウ容易ニ遣ツツケラルルモノニアラス「若シ不幸此ノ種非法干涉發生セハ國家ハ全力ヲ盡シテ防衛シ」云々ハ實ニ支那國民全体ノ決意ナリ支那四億五千萬ノ國民ハ上下一致力ト血ヲ以テ抗爭スヘシ這ハ雷ニ關東軍ニ告クルノミナラス日本政府ト日本國民ニ告ケントスルモノナリト言フカ其ノ

滿、北平、天津、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

649 昭和11年12月10日 在張家口中根領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

アラ善特務機關の引揚げなど同機關員の内  
情報について

張家口 12月10日前発  
本省 12月10日後着

第三三〇號

九日綏遠ヨリ張北經由當地ニ飛來セルアラ善特務機關員ノ語ル所左ノ通

一、九日朝百靈廟ハ内蒙軍ニ收復サレタル模様ナリ

ニ客月中旬中央軍第二十五師關麟徵部隊二千五百ハ大歡迎裡ニアラ善ニ進出シ來リ同地特務機關ハ右部隊ニ包圍セラレ同月二十一日ヨリ三日間ノ期限付ニテ退去ヲ迫ラレ已ムヲ得ス二十四日包頭ニ引揚ケタリ(尤モ二十四日軍ヨリ引揚ノ命アリタルヲ以テ支那側ニハ自發的ニ引揚クルトノ建前ヲ執リタル由)尙右部隊ハ額濟納ヘモ同地特務機關退去強制ノ爲一部ヲ差向ケントシ居タル趣ナリ

要旨ナリ

支、在支各總領事、張家口へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

648 昭和11年12月8日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

李守信や王英の配下多数が國民政府中央への  
帰順を申入れたとの情報について

上海 12月8日後発  
本省 12月8日夜着

第九七〇號

閻錫山ノ駐京代表李鴻文ノ直話ナリトテ長沙ヨリノ報告ニ依レハ李守信、王英ノ配下中主立チタル連中ハ南京側ニ歸順申入ニ決意シ最近代表ヲ南京ニ密派シ了解運動ヲ爲シ居ル處近ク無條件歸順ヲ許サルル運トナルヘキニ付彼等ハ北方ニ於テ間モナク中央歸順ノ旗幟ヲ闡明スルニ至ルヘク又李及王ニ對シテモ中央ハ引續キ懷柔ヲ試ミツツアルカ日本軍ノ勢ニ押サレ未タ歸順ノ意ヲ表明シ來ラストノコトナリ御參考迄

三、アラ善特務機關員ハ當分綏遠機關員ノ指揮下ニ入ルコトナ  
レリ

四、池田書記生ハ目下猶額濟納ニ滯在中ノ模様(出所極秘ニ  
願度シ)

支、北平、南京、天津、漢口へ轉電セリ

漢口ヨリ鄭州へ轉電アリタシ

650 昭和11年12月10日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件がもたらした対日空気の悪化について

上海 12月10日後発  
本省 12月10日夜着

第九八三號

最近支那側ノ對日空氣惡化ノ狀況ハ累次報告ノ新聞論調ニ依ルモ御承知ノ通りナル處鐵道部秘書張水祺ハ九日館員ニ對シ目下ノ如キ空氣ニテハ南京政府部内ノ日本系要人連モ全ク活動ノ餘地ナク張公權等モ成ルヘク日本人トノ面會ヲ避クルニ努メ鐵道材料ノ如キモ高價ナルヲ知リツツ已ムナク日本以外ヨリ之ヲ購入スル狀態ニテ右様空氣ノ改善ニハ

相當時日ヲ要スヘク其ノ間日本側ト新規ノ話合ヲ爲ス望ナキ旨縷々内話セルカ尙黃郛ノ葬儀ニ參列ノ爲來滬セル殷同ハ十日館員ニ對シ今回偶々葬儀ニ參列セル各方面多數有力者ノ對日感想ヲ夫レトナク探リ見タルニ意外ニ強硬ニシテ親日系ノ者ハ益々屏息ノ傾向ニアルコトヲ確メ得タルカ黃郛ノ如キモ生前日本トノ關係深カリシ爲死後ニ於テモ尙白眼視セラレ居ルカ如キ氣ノ毒ナル狀態ニ在リ右ハ單ニ抗日人民戰線派(支那側ニ於テ漸次彈壓ヲ加フルニ至リタルコトハ上海發閣下宛電報第五七四號ノ二ノ通り)又ハ國民黨部等ノ宣傳ノ結果ノミニアラス大體國民一般ノ感情カ反映セルモノト察セラルル處綏遠問題ニ依リ斯迄全國ノ空氣ヲ沸立タシメタルコトハ新シキ支那ノ動向トシテ注意ノ必要アリト語レル趣ナリ

北平、南京、滿へ轉電シ上海へ轉報セリ

651 昭和11年12月11日

在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

中国軍によるシャラムリン占領など綏遠方面  
の戦況に関する報道報告

上海 12月12日後発  
本省 12月12日夜着

第九九六號

先年福建人民政府ニ參畫シ失敗後外遊中ナリシ黃。祺。翔。蔣介石ヨリ歸國方招電ニ接シタル趣ニテ十日着滬シタルカ謀報ニ依レハ蔣ハ將來綏遠問題ノ擴大スルコトアルヘキ場合共產軍及上海其ノ他都市ニ於テ共產黨ノ後方攪亂ヲ防ク爲之ト或種ノ了解ヲ遂ケ置ク必要ヲ感シ黃ヲ其ノ橋渡シニ利用センカ爲同人ヲ呼返シタルモノニシテ若シ右カ成功スル場合蔣ハ共產軍ニ對シ配置中ノ兵力(主トシテ舊東北軍)ヲ北方ニ移動シ前線軍隊ヲ増強スルコトヲモ考慮シ居ルモノナル由ニテ黃ハ何レ近ク西安ニ赴ク豫定ノ由御參考迄滿、北平、在支各總領事へ轉電シ上海へ轉報セリ

653 昭和11年12月13日

在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件に関連した抗日宣伝の学生デモ舉行  
について

北平 12月11日後発  
本省 12月11日後着

第六七八號

十日中央社ノ綏遠電報ハ同日午前十一時傳作義ノ團長李思溫。部隊ハ大廟子(シラムロン)ヲ占領セル旨又北平晨報等ノ綏遠特電ハ王英部下ノ歸順者ハ金。憲。章。石玉山ノ二個師ナルカ其ノ内ノ主動者ハ金ノ旅長葛。子。厚。ニシテ同人ハ九日朝大廟子ニ於テ德王ノ第七師木。克。登。寶。部隊ノ武裝解除ヲ行ヒ直ニ烏。蘭。花。ヲ經テ九日綏遠ニ到着シ傳作義ニ會見セル旨報道シ居レリ

支、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

652 昭和11年12月12日

在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠問題の拡大を想定して蔣介石が中国共産  
党とのある種の了解付けを画策していると  
の情報について

北平 12月13日前発  
本省 12月13日前着

第六八一號

曩ニ北平學生救國聯合會ハ冀察政權成立一週年紀念日(十二月十八日)前後ニ於テ綏遠問題ニ關聯シ一大示威運動舉行ノ計畫ヲ廻ラシ居ルヤノ聞込アリタルニ付數日來當館警察署ヲシテ查察警戒方手配中ノ處果然本十二日午前八時半頃ヨリ東北、清華、師範、北京、北平、中國、輔仁等ノ各大學ノ學生參加ノ抗日宣傳遊行開始セラレ二隊ニ分レ一隊ハ約五百名、他ノ一隊ハ約二千名ヲ以テシ夫々十數旒ノ抗日示威旗ヲ押立テ對日即時絶交、冀東討伐、察北回復ノ各要求青島ニ於ケル日本軍ノ暴行ニ反對、青島上海ノ罷業援助等ノ各種激越ナル文句入ノ傳單ヲ撒布シ抗日歌及口號ヲ高唱シツツ城内各街路ヲ練リ歩キタルカ午前十一時過何レモ公安局ノ手ニ依リ一應解散セシメラレタリ(西直門外所在燕京大學ノ學生ハ入城ニ先ンシ城門ヲ閉鎖セラレタル爲參加セス)然ルニ同日午後三時頃約一千名ノ學生景。山。ニ集合シ抗日演說ヲ爲シ更ニ氣勢ヲ揚ケツツアリタルカ其ノ附近一帶ニ二十九軍歩兵部隊約三百名出動警戒ニ任スルト共

ニ市當局ニ於テハ秦市長自ラ出向キ慰撫鎮壓ニ努メタル結果夕刻ニ至ルヤ夫々退散セリ

右ハ時節柄頗ル警戒ヲ要スル事態ニ付本官十二日夜宋哲元ト會見ノ際之カ取締勵行方ニ關シ篤ト其ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

支、在支各總領事、張家口へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

654 昭和12年1月8日 在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

国民政府の懷柔策があつても徳王は妥協を排し日本に頼つて所期目的の達成に努力する意向であるとの同人側近の内話について

北平 1月8日後発

本省 1月8日夜着

第一〇號(極秘)

本八日徳王代表張福海ハ館員ニ對シ左ノ通り内話セル趣ナリ

一、内蒙軍ノ兵力ハ李守信ノ第一軍四箇師、徳王ノ第二軍四

支、上海大使、在支各總領事、張家口、滿へ轉電セリ
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

655 昭和12年1月9日 在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

太原特務機關長らが中国側と内蒙側との妥協を画策しているが妥結は容易ならざる旨橋本参謀長内話について

北平 1月9日後発

本省 1月9日後着

第一二號(部外極秘)

本月四日橋本参謀ハ本官ニ對シ

綏遠問題ハ政治的ニ解決シ(中央ノ方針)大體昨年十一月事變前ノ状態ニ復スル(關東軍ノ方針)方針ニ基キ處理スルコトトナリタルヲ以テ先ツ一方ニ於テ内蒙ト綏遠側トノ聯絡ヲ執ルト共ニ在太原河野機關長等ヲシテ閻錫山、傅作義等ノ意嚮ヲ打診セシメタルニ山西側ハ本問題ハ元來内蒙側ノ進撃ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ今更妥協云々ハ可笑シク又日本カ其ノ間ニ立ッハ了解ニ苦シムトテ餘リ取合ハ

箇師及親衛軍一箇師計九箇師ニシテ商都、烏蘭哈達、錫喇哈達ノ線ニ據リ守勢ヲ持シ部隊ノ整理訓練中ナルカ王英部隊背叛ノ影響モアリ過般來李守信軍ニモ不穩ノ空氣アリ警戒中ナル處過般ノ戰敗及日本人顧問指導官ノ粗暴ナル振舞ニ對スル反感等ニ依リ一般内蒙人ノ徳王ニ對スル信望動搖ノ傾向アリテ情勢樂觀ヲ許ササルモノアリ徳王ハ是等ノ對策ニ腐心シ居レルカ日本側ノ方針分明ヲ缺ク嫌アル外最近南京政府ニ於テハ各種好條件ヲ以テ徳王ノ懷柔ヲモ策シ居レルヤノ情報アリ少クモ内蒙ノ青年數名カ北平ニ於テ右目的ノ爲ニ策動シ居レルハ事實ニシテ徳王トシテハ退守若ハ妥協ノ方針ヲ排シ飽迄日本ニ頼リ所期ノ目的達成ニ努力ノ肚ナルニ付日本側ニ於テ此ノ際右苦境ニ同情セラレ理解アル積極的援助ヲ斷行セラルル様希望スルモノナリ

二、冀東政府トハ双方類似ノ立場ニアル關係モアリ從來隔意ナク聯絡ニ努メ來リタルカ冀東側ハ昨年十月物資及資金計百萬元ノ援助ヲ約シ置キ乍ラ何故カ其ノ第一回交付金十萬元ノ送金スラ未タニ實行セス其ノ不信ニハ聊カ呆レ居ル次第ナリ

サル爲未タ妥協具體案ヲ持出ス時機ニ到リ居ラサル旨内話シタルカ綏遠問題ノ政治的解決ハ内蒙時局收拾上將又日支國交調整上緊急ノ必要アリト認メラルモ現時ノ内蒙戰況ニ於テ綏遠側ヲシテ陰山々脈以北及阿片等ニテ綏遠ノ寶庫ト言ハルル五原ヲ政治的解決ニ依リ拋棄セシムルコトハ困難ニシテ暫ク事態ノ推移ヲ待ツ外ナカルヘシト思考ス尙當地軍側ヨリ聞知シタル所ニ依レハ關東軍ニ於テモ綏遠軍カ土肥原、秦德純協定ヲ破リタル場合ニハ出動スヘキモ然ラサル限り出兵セサル方針ナル趣ナリ  
支、上海大使、天津、張家口へ轉電セリ  
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

656 昭和12年1月28日 在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

事態緩和策として徳王が和平通電發出について

北平 1月28日後発

本省 1月28日夜着

第四六號

二十七日ノ支那紙ニ徳王ノ第二次和平通電掲載セラレタル

カ張福海ニ確メタル處右ハ事實ニシテ德王ニ於テモ大勢上差當リ事態ノ緩和ヲ圖ルヲ得策ト認メタル結果ナリトノコトナリ

支、上海大使、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

657 昭和12年2月9日 在張家口中根領事代理より
林外務大臣宛(電報)

中国側の塹壕開鑿により綏遠飛行場が使用不能に陥ったとの惠通航空公司報告について

張家口 2月9日後発
本省 2月9日夜着

第四〇號

當地惠通公司營業所ヨリノ消息ニ依レハ六日頃綏遠飛行場ハ支那側ニ依リ縱横ニ塹壕ヲ掘繞ラサレ全ク使用不能トナリ定期飛行機ハ同地ニ着陸セス包頭へ直接聯絡スルコトヲ餘儀ナクセシメラレ居ル趣ナルカスル支那側ノ厭カラセ行爲ハ今後頻發スル傾向アルヤニ察セララル
支、上海大使、北平、天津へ轉電セリ

658 昭和12年2月10日 在張家口中根領事代理より
林外務大臣宛(電報)

入境許可なき外国航空機の省内侵入を禁止する
旨綏遠省政府より同地特務機關へ通告について

張家口 2月10日後発
本省 2月10日夜着

第四一號

往電第四〇號ニ關シ

八日及九日省政府ハ同地特務機關ニ對シ

「綏遠省政府ノ入境許可ナキ他國飛行機ノ綏遠省境内上空侵入ヲ禁止ス

ニ右ニ違反シテ着陸ヲ敢テセハ敵機ト看做シ擊破スヘシト通告越セル趣ナリ

尙綏遠ヨリ諜知スル所ニ依レハ高射砲十餘門ヲ有スル第二十五師關麟徵ノ砲兵隊ハ城内ヨリ同地飛行場へ移駐セル由ナリ爲念

支、上海大使、滿、北平、天津へ轉電セリ

659 昭和12年2月18日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

内蒙軍政府および德王の動靜に関する情報について

北平 2月18日後発
本省 2月18日夜着

第七一號(部外極秘)

最近德化ヨリ歸來セル張福海カ十八日館員ニ爲セル内話要領左ノ通り

「先般内蒙軍政府ハ日滿兩國ノ外交國策ニ順應シ暫ク鋒ヲ收メテ内治ニ専念スル方針ヲ確立シ爾來着々之カ實行ニ着手シツツアリ德王ハ母ノ病氣ノ爲目下西蘇尼特ニ歸リ居ル處今回新任セル德化機關長カ物判リ良キ溫厚ノ武人ナルニ付大イニ安堵シ頗ル元氣ニ見受ケラレ一般人心モ漸次落着キツツアル様看取セリ唯傳作義側ニテ德王過般

ノ第二次和平通電アルニモ拘ラス依然トシテ慰勞金乃至軍費目當ノ惡宣傳ヲ逞フシツツアルニハ相當迷惑シ居レリ又蕭振瀛派タル前天津市政府社會局長劉冬軒カ蔣介石ノ意ヲ承ケテ南京、張家口間ヲ往復シ南京政府ト德王側トノ妥協ヲ策シツツアル處軍政府トシテハ未タ右提議ニ應セス對處方折角考究中ノ模様ナリ

二、軍政府側ニテハ過般ノ綏東工作ニ於ケル苦キ經驗ニ鑑ミ後方ニ於ケル物資ノ輸送路確保ノ爲德化ト通州トヲ繋ク自動車路(途中滿洲國領域長城線北側ニ沿フ)建設計畫ヲ樹テ居リ近ク冀東政府ヨリ答禮使派遣ノ機會ニ於テ具體的ニ商議セラルル筈ナルカ右實現ノ上ハ德化、通州間二日ニテ輸送可能トナリ從來ノ多倫經由ニ比シ遙ニ便利トナル見込ナリ云々

支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口へ轉電セリ
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ